現代社会学基礎					単位数	2単位
授業コード	40010	科目ナンバリング	250A0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	二階堂　裕子、濱西　栄司、福田　雄、山下　美紀					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	オムニバス					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では，現代社会のさまざまなしくみや問題について幅広く，具体的に提示することで受講生の社会に対する興味関心を喚起する。また，社会の諸問題を発見し，その問題にアプローチし，解決の糸口を見出していくための技法の一端も示していく。現代社会学を担当する教員が，特別講義を含むオムニバス形式で授業をおこなう。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会学の基礎的な事項について説明できる	知識・技能／主体性
2	現代的なテーマについて社会学的観点から考察することができる	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	4人の担当教員がエッセイやレポートなど各25点分の課題をだす	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 社会学とはどのような学問か（山下）
2. 社会的存在としての人間（山下）
3. 行為者としての人間（山下）
4. 社会全体をとらえてみよう（濱西）
5. 農業中心の社会とは（濱西）
6. 工業中心の社会とは（濱西）
7. 対人サービス業中心の現代社会とは（濱西）
8. 「自殺論」と近代社会の生きづらさ（福田）
9. 「機械の倫理」はどのようにプログラミングされるべきか（福田）
10. 近代社会と死（福田）
11. 近代社会と自己決定権（福田）
12. グローバル化という社会現象（二階堂）
13. グローバル化時代における企業活動（二階堂）
14. グローバル化によるニッポンの多文化化（二階堂）
15. 再び、社会学とはどのような学問か（二階堂）

定期試験
4回のエッセイ・レポート等
試験のフィードバックの方法
各担当教員が授業中に示す
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の中で，参考文献・資料等を適宜，紹介するので，それらをかならず読んで次の授業に望むこと（各回2・3時間程度）。その際，各自が興味のあることと関連づけて理解し，自身の研究に生かすこと。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考文献・資料等については各担当教員が授業中に指示する。
オフィスアワー
各担当教員が授業中に示す。基本的に，授業の前後の時間に（あるいはメールで）質問を行うこと。
連絡先
各回の担当教員にEメールで連絡すること。 山下美紀（miki@m.ndsu.ac.jp） 濱西栄司（hamanishi@post.ndsu.ac.p） 福田雄（u_fukuda@m.ndsu.ac.jp） 二階堂裕子（nikaidoy@m.ndsu.ac.jp）
留意事項
本授業では，日常生活上に生起する問題を取り上げている。受講生は，普段から新聞や本に親しみ，社会への広い関心を持つように努めてもらいたい。

社会史基礎					単位数	2単位
授業コード	40060	科目ナンバリング	250A0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	久野　洋、紺谷　亮一、鈴木　真					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	オムニバス					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は社会史研究の入門編であり，広義の社会史（アジア社会史・日本社会史・考古学）を担当する教員がオムニバス形式でおこなう。この授業を通して，高校までの世界史・日本史学習とはおおきく異なる社会史研究のあり方を理解する。

高校までの歴史の学習は，教科書の叙述に従って歴史の流れをつかみ，基本的な事項（固有名詞・年号）を理解・暗記することが中心だったと思う。また「答え」は一つであるとしてきたのではないだろうか。それに対して，大学の歴史学研究では史料に基づいて分析・解釈を施し，歴史像を一人一人が再構築していく。歴史像は常に新たに形づくられ，修正され続けているのである。

以上を踏まえて本授業では，さまざまな時代・地域の，名もない人びとの日々の営みやものの考え方などをも対象として，何が史料となり得るのか，どのように史料にアクセスするのか，史料に基づいた分析・解釈の方法とはどのようなものであるのかを，具体的かつ丁寧に紹介する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代日本社会での常識や一般的な歴史像を相対化し，説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	史料へのアプローチ方法と多様な分析・解析の方法を修得し，説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	テスト・レポートは，講義担当者3名が各々出題し，総合的に評価する。	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 歴史と社会（鈴木）
2. 世界史教科書記述の比較―中国史を例に（鈴木）
3. 同一人物に対する評価の比較（鈴木）
4. 同一事件を記した史料の比較（鈴木）
5. 中国史の史料とは何か（鈴木）
6. 歴史を「問う」―日本史を例に（久野）
7. 日本近代と民衆（久野）
8. 文明開化をとらえなおす（久野）
9. 戦争をとらえなおす（久野）
10. 近代国家に生きる（久野）
11. 私とトルコ考古学（紺谷）
12. 人類史の大事件：直立二足歩行、定住、農耕開始、都市成立、文字の発明（紺谷）
13. 聖書の考古学的解釈（紺谷）
14. 考古学の現場：遺跡の発掘（紺谷）
15. 考古学と現代（紺谷）

定期試験
テスト・レポートは，講義担当者3名がそれぞれの講義中に出題する。
試験のフィードバックの方法
講義中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業では資料プリントを配付し，また参考図書，参考URLを紹介することがある。それらを授業の前後に参照し，理解を深めてもらいたい（毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
使用しない。
オフィスアワー
各担当教員が講義中に指示する。 質問等は，基本的にその講義終了直後か，オフィスアワーで対応する。各担当教員の指示に従うこと。
連絡先
各回の担当教員，あるいは科目担当の久野にメール（hisano@m.ndsu.ac.jp）で連絡する。
留意事項
歴史学を学ぶことが，それぞれの受講者にとってどのような意義を持つのか。それは，それぞれの顔や個性が千差万別であるように，人それぞれであり，また多種多様であろう。本授業で展開される講義のなかから自分の心に響くものを選びとってほしい。

基礎演習					単位数	2単位
授業コード	40120	科目ナンバリング	250A0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	福田　雄、轟木　広太郎、鈴木　真、紺谷　亮一、二階堂　裕子、久野　洋、濱西　栄司、山下　美紀					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

少人数のクラスに分かれてゼミナール形式で授業をおこなう。研究テーマの選び方や，文献・資料の読み方，レポートの書き方，発表や討論の方法など，現代社会学科で学ぶために必要な研究の基礎を身につけることを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代社会学科で扱う各領域について，自らの学問的な関心を説明できる。	知識・技能／主体性
2	学問的に公正な態度とは何かを説明し，実行できる。	知識・技能／主体性
3	大学での研究に必要な基礎技術を体得し，応用できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	ゼミナール形式の授業に積極的に参加できる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	ブックレポート：50%	1／2／3
2	口頭発表：30%	2／3／4
3	討論への参加：20%	2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション
2. 図書館オリエンテーション
3. 講義①　資料収集と資料整理
4. 講義②　文献の読み方・まとめ方
5. 講義③　レポートの書き方，原稿執筆の際の注意事項
6. 講義④　注のつけ方，研究成果の発表
7. 研究成果の発表と全体討論①―大学における研究
8. 研究成果の発表と全体討論②―文献の選び方
9. 研究成果の発表と全体討論③―口頭発表の目的
10. 研究成果の発表と全体討論④―レジュメの記載事項
11. 研究成果の発表と全体討論⑤―発表原稿の作成と時間配分
12. 研究成果の発表と全体討論⑥―聞き手のマナー
13. 研究成果の発表と全体討論⑦―質疑応答
14. 研究成果の発表と全体討論⑧―討論の意義
15. 総括

定期試験
ブックレポート（400字詰め原稿用紙換算で5～6枚程度）を2本課す。詳細は講義中に説明する。
試験のフィードバックの方法
クラスごとに授業中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・『大学生の研究―その技法とルール』を使用する前半の授業（第3回～6回）では，次回授業で扱う箇所について，事前にテキストを熟読して理解を深めておくこと（各回3時間程度）。 ・後半の授業（第7回～14回）では，口頭発表にそなえて，研究テーマ・文献の選定や，文献の入念な読み込み，資料・データの収集，様式に則ったレジュメ作成・印刷などを行うこと（各回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『大学生の研究――その技法とルール』（第1回のオリエンテーション時に購入）を使用する。 ＜参考書等＞ クラスごとに，そのつど指示する。
オフィスアワー
クラスごとに授業中に指示する。質問等は，基本的にその授業の終了直後か，オフィスアワーで対応する。
連絡先
各クラスの担当教員にEメール等で連絡する。各教員の連絡先は第1回授業時に配布する。
留意事項
現代社会学科の1年生は必ず履修しなければならない。指定されたクラスでの少人数の授業となる。

現代社会学基礎演習					単位数	2単位
授業コード	40160	科目ナンバリング	250A0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	福田　雄、二階堂　裕子、濱西　栄司、山下　美紀					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

基礎演習の成果を踏まえ，現代社会学領域の研究テーマに即して研究の仕方を実践的に学ぶことを目的とする。研究の技法の修得にとどまらず，各領域の研究内容にも踏み込んだ演習授業とする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代社会学領域に対する自らの学問的な関心を説明できる。	知識・技能／主体性
2	実践的な研究能力を体得し，応用できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	ゼミナール形式の授業に積極的に参加できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	レポート：50%	1／2
2	口頭発表：30%	1／2／3
3	討論への参加：20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

（以下は一例であって，進め方はクラスによって異なる）
1. 講義①　オリエンテーション
2. 講義②　テーマ設定について
3. 講義③　研究に必要な技術・方法論について
4. 講義④　資料の収集方法，資料の読み方について
5. 文献・テキストの輪読①―社会学の多様性を知る
6. 文献・テキストの輪読②―研究論文とは何か
7. 文献・テキストの輪読③―先行研究を批判的に読む
8. 社会学の考え方①―社会現象と概念
9. 社会学の考え方②―社会の記述と分析
10. 社会学の考え方③―文献・データの検討
11. 研究成果の発表と全体討論①―テーマを設定する
12. 研究成果の発表と全体討論②―文献を収集・検討する
13. 研究成果の発表と全体討論③―議論を深める
14. 研究成果の発表と全体討論④―研究レポート執筆に向けて
15. 総括

定期試験

レポートを2本課す。
・ブックレポート（400字詰め原稿用紙換算で5～6枚程度）
・研究レポート（400字詰め原稿用紙換算で18枚程度）
詳細は講義中に説明する。

試験のフィードバックの方法

クラスごとに授業中に指示する

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）口頭発表については，研究テーマ・文献の選定や，文献の入念な読み込み，資料・データの収集，様式に則ったレジュメ作成などが必要となる。日ごろから十分に準備をしておくこと（毎回3時間程度）。
レジュメの作成にあたっては，1期の授業「基礎演習」で習得した約束事および『大学生の研究―その技法とルール』に記された様式に照らして，過不足がないか点検すること。その上で，授業には人数分のレジュメを印刷し，持参すること。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
「基礎演習」（1期）のオリエンテーション時に購入した『大学生の研究-その技法とルール-』を使用する。その他，クラスによっては，輪読対象とする図書の入手を義務づけることがある。

＜参考書等＞
クラスごとに，そのつど指示する。

オフィスアワー

クラスごとに授業中に指示する。質問等は，基本的にその授業の終了直後か，オフィスアワーで対応する。各担当教員の指示に従うこと。

連絡先

各クラスの担当教員にEメール等で連絡する（各教員の連絡先は第1期「基礎演習」第1回時に配布済）

留意事項

現代社会学科の1年生は，現代社会学基礎演習または社会史基礎演習のいずれかを履修しなければならない。どちらの授業科目を履修するか，またどのクラスで履修するかは，希望に基づく選択制とする。ただし，あくまでも少人数制の授業とするため，1クラスあたりの定員を設け，希望者が定員を超えるクラスが出た場合には調整を行う。

社会史基礎演習					単位数	2単位
授業コード	40210	科目ナンバリング	250A0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	久野　洋、鈴木　真、轟木　広太郎、紺谷　亮一					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

基礎演習の成果を踏まえ，社会史領域の研究テーマに即して研究の仕方を実践的に学ぶ。研究の技法の修得にとどまらず，各領域の研究内容にも踏み込んだ演習授業とする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会史領域に対する自らの学問的な関心を説明できる。	知識・技能／主体性
2	実践的な研究能力を体得し，応用できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	ゼミナール形式の授業に積極的に参加できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート：50%	1／2
2	口頭発表：30%	1／2／3
3	討論への参加：20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

（以下は一例であって，進め方はクラスによって異なる）
1. 講義①　オリエンテーション
2. 講義②　テーマ設定について
3. 講義③　研究に必要な技術・方法論について
4. 講義④　史資料の収集方法，史資料の読み方について
5. 文献・テキストの輪読①―歴史学の多様性を知る
6. 文献・テキストの輪読②―研究論文とは何か
7. 文献・テキストの輪読③―先行研究を批判的に読む
8. 歴史学の考え方①―歴史事象と概念
9. 歴史学の考え方②―歴史の叙述
10. 歴史学の考え方③―史料批判
11. 研究成果の発表と全体討論①―テーマを設定する
12. 研究成果の発表と全体討論②―史資料を収集・検討する
13. 研究成果の発表と全体討論③―議論を深める
14. 研究成果の発表と全体討論④―研究レポート執筆に向けて
15. 総括

定期試験

レポートを2本課す。
・ブックレポート（400字詰め原稿用紙換算で5～6枚程度）
・研究レポート（400字詰め原稿用紙換算で18枚程度）
詳細は講義中に説明する。

試験のフィードバックの方法

講義中に指示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）口頭発表については，研究テーマ・文献の選定や，文献の入念な読み込み，史資料・データの収集，様式に則ったレジュメ作成が必要となる。日ごろから十分に準備をしておくこと（毎回3時間程度）。
レジュメの作成にあたっては，１期の授業「基礎演習」で習得した約束事および『大学生の研究―その技法とルール―』に記された様式に照らして，過不足がないか点検すること。その上で，授業には人数分のレジュメを印刷し，持参すること。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
「基礎演習」（１期）のオリエンテーション時に購入した『大学生の研究―その技法とルール―』を使用する。
その他，クラスによっては，輪読対象とする図書の入手を義務づけることがある。

＜参考書等＞
クラスごとに，そのつど指示する。

オフィスアワー

各担当教員が授業中に指示する。質問等は，基本的にその授業の終了直後か，オフィスアワーで対応する。各担当教員の指示に従うこと。

連絡先

各クラスの担当教員，あるいは科目担当の久野にメール（hisano@m.ndsu.ac.jp）で連絡する。

留意事項

現代社会学科の１年生は，現代社会学基礎演習または社会史基礎演習のいずれかを履修しなければならない。どちらの授業科目を履修するか，またどのクラスで履修するかは，希望に基づく選択制とする。ただし，あくまでも少人数制の授業とするため，１クラスあたりの定員を設け，希望者が定員を超えるクラスが出た場合には調整を行う。

社会学原論					単位数	2単位
授業コード	41010	科目ナンバリング	250B0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	濱西　栄司					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業の目的は、社会学の基礎的な概念や視座について学び、その原理的な特徴を理解することにある。社会学という学問は、つねに同時代の複雑な社会現象を捉えようとしてきた。そのため、普遍的なモデルを発展させることよりも、変わりゆく現実そのものに関する幅広いデータの収集・解釈を重視し、また、あらかじめ政治的観点や経済的観点などに視座を限定するよりも、対象に合わせて総合的・複眼的な分析を行うことを特徴としている。本授業では、その特徴の理解を一つの軸としつつ、テキストと辞書を用いて、社会学の基礎的概念・視座、及び各専門領域の概要について学んでいく。

授業では主にGoogle Classroomを用いて各回の自学習やフィードバック、期末レポートの管理を行う。また自学習を前提として、隣席学生同士（2～3名）で簡単に意見交換する時間を設けるようにしている。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会学の基礎的な概念について説明できる。	知識・技能
2	社会学的な見方・考え方について理解し、実践できる。	思考・判断・表現力／主体性
3	社会学を構成する各専門領域の概要を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	社会学と隣接学問の違いについて説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み：20%	2
2	確認テスト：30%	1
3	期末レポート：50%	1／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

※一部の授業（第5回など）で、テキストとは章の順番を変更しているので注意を。
1. オリエンテーション
2. 社会学とは何か（1章）
3. ＜私＞をめぐる社会学（2章）
4. ジェンダーとセクシュアリティをめぐる社会学（3章）
5. グローバル社会とエスニシティをめぐる社会学（10章）
6. 家族をめぐる社会学（5章）
7. 地域をめぐる社会学（6章）
8. 若者と子どもをめぐる社会学（4章）
9. 労働・職場をめぐる社会学（7章）
10. メディアと情報化をめぐる社会学（8章）
11. 階級・階層をめぐる社会学（9章）
12. 社会運動・NPO・ボランティアをめぐる社会学（11章）
13. いろいろな社会学（12章）
14. 社会学の歴史（13章）
15. 全体の振り返り

定期試験
・確認テストを行う ・期末レポートを課す
試験のフィードバックの方法
Google Classroomを用いて行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）必携テキストと辞書を用いて、毎回、該当章について予習を行い、学んだことや質問をGoogle Classroomのスレッドに記して提出すること（各回3時間程度）。一部の授業（第5回など）で、テキストとは章の順番を変更しているので注意を。 　※なお各章の第1節が一番重要なので、とくに重点的に予習を行うように。 （復習）授業の補足説明や追加資料の紹介を、Classroomで行うことがあるので必ずチェックすること。
必携書（教科書販売）
宇都宮京子・西澤晃彦編、2020、『よくわかる社会学（第3版）』ミネルヴァ書房 宮島喬編、2003、『岩波小辞典 社会学』岩波書店
必携書・参考書（教科書販売以外）
毎回、授業開始時にレジュメを配布する
オフィスアワー
メールによる質問、または金曜の12時30分～13時（臨時会議等で留守にする場合があるので事前にEメールで予約すること）。 オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。
連絡先
hamanishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・授業の補足説明や追加資料の紹介を、マナバフォリオの「掲示板」やGoogle Classroom上で行うので、履修者は必ずリマインダーメール設定をしておくこと（第1回の授業で説明する）。

理論社会学				単位数	2単位
授業コード	41060	科目ナンバリング	250B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	山下　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本講義では，社会学理論のこれまでの流れについて概略を示す。社会に生起している諸問題解決の糸口として，これまで蓄積されてきた社会学の学説や理論を取り上げ，それらの諸理論を用いた社会学的接近方法を提示する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会学に関する主要な学説や理論を説明することができる	知識・技能／思考・判断・表現力
2	社会学の理論や概念を用いて，現実社会を分析することができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	社会学を学ぶことの意義を見出すことができる	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	中間試験：６０％	1／2
2	期末レポート：４０％	2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．理論社会学とはどのような学問か
２．社会学における理論と実践
３．社会学の歴史
４．18・19世紀の社会学
５．20世紀の社会学
６．構造・機能論
７．準拠集団と相対的不満・中間試験
８．相互行為／相互作用
９．認知的不協和の理論
１０．小集団研究
１１．交換理論
１２．互酬の不均衡と権力
１３．地位と役割
１４．犯罪と統制・中間試験
１５．現代の社会学の研究紹介

定期試験
期末レポート：「社会学の理論を用いて，現実社会に生起している諸問題を分析・考察する」，中間試験２回実施：授業の理解度・習得度を測る試験
試験のフィードバックの方法
中間試験実施後，解答例・採点基準等について説明する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習） 日ごろから，社会学に関する基本的な文献や社会学辞典などを読むようにしてもらいたい（各回1時間程度）。 （復習） 授業で取り上げた理論について，必ずそれに関連する文献（授業中に紹介した文献や社会学テキストや辞典など）を読み，理解を深めるようにしてもらいたい（各回2時間程度）。 授業では、関連するニュースや書籍等を紹介するので、各自掘り下げて理解を深めて欲しい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 参考文献・資料等については講義中に提示する. 必要に応じてプリントを配布する.
オフィスアワー
授業中に指示する 随時、メールで質問を受け付ける
連絡先
miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会集団・組織論				単位数	2単位
授業コード	41090	科目ナンバリング	250B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	濱西　栄司				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業の主な目的は，社会学の基礎理論の一つである「社会集団・組織論」の理解を通して，現代社会を捉えるための基本的な視座や技法を修得することにある。授業の前半では，経済・政治をめぐる代表的な社会組織（「会社」，協同組合，行政組織，国際機関，NPO・NGOなど）を，その近現代史と絡めつつ学ぶ。後半では，多様な社会現象を，集団・組織の戦略的活動や組織関係の現れとして分析していく基本的な視座・技法を修得していく。

授業では主にGoogle Classroomを用いて各回の自学習やフィードバック、期末レポートの管理を行う。また自学習を前提として、隣席学生同士（2～3名）で簡単に意見交換する時間を設けるようにしている。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	代表的な社会組織の歴史と現状について理解し，その概要を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	社会現象を，社会組織の活動・連関として捉える姿勢を身につけることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	関心のある社会組織を，授業で学ぶ手法のいずれかで分析することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み：30%	2
2	確認テスト：30%	1
3	期末レポート：40%	2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション：社会学と社会集団・組織論
＜第Ⅰ部　現代の代表的組織＞
2. 類型とアソシエーション
―経済：会社とそれ以外―
3. 「会社」の近現代史
4. 企業倫理と企業の社会的責任（CSR）、SDGs
5. 同業組合/労働組合の近現代史
6. 労働組合の現在とこれから
7. オルタナティブとしての協同組合
8. NPO、社会的企業、ソーシャル・ベンチャー
―政治：国家と運動―
9. 近代国民国家の形成
10. グローバル・ガヴァナンス
11. 業界団体と社会運動
＜第Ⅱ部　組織の研究＞
12. 社会学的組織研究：フリーライダーと集合行為論
13. 社会学的組織研究：資源動員論
14. 社会学的組織研究：事例・問題からのアプローチ
15. まとめとこれから

定期試験
・第Ⅰ部終了時に確認テストを行う ・期末レポートを課す
試験のフィードバックの方法
Google Classroomを用いて行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
＜第Ⅰ部＞では，授業予定一覧に示した各テーマについて，書籍・論文・新聞・TV・Web等で情報を収集しておくこと。＜第Ⅱ部＞では，自分が関心をもつ社会組織について文献やウェブサイトから情報を収集していくこと（いずれも各回1時間程度）。自学習の成果は、Google Classroomのスレッドに記して提出すること。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
毎回、授業開始時にレジュメを配布する
オフィスアワー
メールによる質問、または金曜の12時30分～13時（臨時会議等で留守にする場合があるので事前にEメールで予約すること）。 オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。
連絡先
hamanishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・組織の「現場」について知識を得るために，外部ゲストを招いた授業を実施している（ex. 岡山NPOセンター事務局長，岡山信用金庫総務課職員，財務省岡山財務事務所長，財務省中国財務局金融監督官，銀行/公務員転職経験者OGなど）。 ・組織を学ぶ機会となるので、岡山市他が主催するイベントや事業について積極的に情報提供する。

地域社会学				単位数	2単位
授業コード	41100	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	二階堂　裕子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本講義の目的は、現代における地域社会の諸問題への関心と理解を深めること、そして、新たな社会システムの構築に向けて、今後、私たちが取り組むべき課題とは何かを考察することにある。まず、私たちが日常生活を営む地域社会というものの捉え方やその成り立ちを学ぶ。そのうえで、戦後の高度経済成長期に日本の都市化がどのように進み、地域社会における人々の関係がどのように変容したのかを理解する。さらに、少子高齢化の進行、地方都市における衰退、安全・安心をめぐる危機の深刻化、グローバル化の進展などの社会変動が、今日の地域社会にどのような問題を生み出しているのかについて検討する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	地域コミュニティの変容を促したメカニズムや、今日の社会が直面している諸問題を説明できる。	知識・技能
2	現代の地域社会をとりまく諸問題の解決のために必要な条件を論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	自らと地域社会の関係を批判的に再考し、その成果を記述することができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	より望ましい地域社会のありようについて考え、その実現に向けて自分が行動すべきことを広い視野から具体的に論じることができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎回の小課題（授業で学んだことや意見）：30%	1／2／3
2	期末レポート：70%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 地域社会とコミュニティ
2. コミュニティ問題の登場
3. 都市化と地域社会における変容
4. 町内会とコミュニティ形成
5. コミュニティ活動における自治体・住民・NPOの関係
6. コミュニティ・センター
7. コミュニティ活動
8. 子育てと地域社会
9. 高齢化と地域社会
10. 中山間地域における過疎化
11. 地方都市の衰退と再生
12. インナーシティ問題の発生
13. 安全・安心な生活と地域社会
14. グローバル化と地域社会
15. 多民族・多文化化とコミュニティ形成

定期試験
第15回の授業終了後、期日までにmanaba folioにてレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
manaba folioに模範解答を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（復習）授業で扱った内容について、配布した資料を熟読するほか、新聞などの情報を収集し、自分の見解をまとめておくこと（毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 講義中に適宜資料を提示するほか，参考書なども紹介する。
オフィスアワー
質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。
連絡先
nikaidoy@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自分をとりまく地域社会の動向や諸問題に関心をもつこと。

宗教社会学					単位数	2単位
授業コード	41120	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	福田　雄					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

「宗教的な意味」を持つ行為は、寺社や教会などでのいわゆる「宗教」的な場面に限られるものではなく、私たちが日常生活の中であまり意識することなく繰り返し行っている習慣や、災害に襲われたときに夢中で行っている行為の中などに、数多く見られます。
本授業では、宗教と社会の関係について、できるだけ身近な振る舞いや具体的な事例を手掛かりにして掘り下げ、現代社会を理解するための技能を修得します。私たちにとって宗教はどのような意味を持つのかというテーマにかんする知識を、全15回の授業を通して学びます。
前半では、今日的なトピックに関連させながら宗教社会学の視点を理解します。後半では、苦難という観点に焦点を当てながら、事例研究や古典的研究を学びます。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	宗教社会学の考え方を理解するとともに、現代社会と宗教の関係を考えるための社会学的な素養を身につける。	知識・技能
2	現代社会と宗教をめぐる諸課題について多角的に観察し、他者との共生やコミュニケーションに応用できる。	思考・判断・表現力
3	多様化する現代社会や文化に関心を向け、他者に寄り添う態度と意欲をもつことができる。	主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	定期試験（90%）	1／2／3
2	リアクションペーパー（10%）	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. イントロダクション
2. 初詣は「宗教」か？
3. 「宗教」とは何か？
4. 宗教の実体的定義と機能的定義
5. 折り鶴を燃やすことはなぜ悪か？　近代社会の聖なるもの
6. 生きることを強いることはいかに可能か？　諸外国の事例
7. 生きることを強いることはいかに可能か？　日本の事例
8. なぜ災いがもたらされたのか？　永井隆の燔祭説
9. なぜ災いがもたらされたのか？　燔祭説への批判とその社会的文脈
10. 長崎市の原爆平和祈念式典の変遷
11. 災禍をめぐる宗教者の慰霊・追悼行事
12. 東日本大震災をめぐる慰霊祭・追悼式
13. 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」における「天職」概念
14. 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」における「予定説」
15. まとめと振り返り

定期試験
定期試験で評価を行います。 このほか、毎回の授業後に提出してもらうリアクションペーパーも評価対象とします。
試験のフィードバックの方法
試験結果に疑義のある人は、個別に解説するのでメールにて連絡すること。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前に特別な予備知識は不要ですが、講義内容や配布資料の復習が必要です（60分程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考資料 福田雄 2020 『われわれが災禍を悼むとき――慰霊祭・追悼式の社会学」慶應義塾大学出版会（ISBN 978-4-7664-2654-0）
オフィスアワー
・質問はmanabaのほかメールで受け付けます。
連絡先
u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項
毎授業後にmanabaを通じて質問やコメント等を記入してもらい、翌週フィードバックすることで、双方向的な授業運営を取り入れます。 リアクションペーパーの提出期日は、授業翌日の23時55分です。

家族社会学				単位数	2単位
授業コード	41130	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	山下　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本講義では，家族変動を読み解く基本的な理論と方法論を提示し，現代の家族に迫る。歴史の中で変転を遂げてきた家族の姿を追い，現代家族の抱える問題を析出する。家族および人と人のつながりを考えていく手がかりを提示する。講義中心であるが，グループ討議や発表の機会を持つ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	家族研究の基礎的理論・学説および基本的用語を説明することができる。	知識・技能
2	家族変動を社会学的な分析視点から説明することができる。	思考・判断・表現力
3	家族にかかわる現代的諸問題を，自分の生き方と関連付けながら考察・分析・表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	中間試験：２回実施６０％	1／2
2	課題レポート：１０％	3
3	期末レポート：３０％	2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．家族研究への招待
２．家族研究の紹介・アンケート
３．社会と家族と個人
４．家族イメージの変容
５．社会の変化と家族の変容・グループディスカッション
６．近代家族と「子どもの誕生」
７．近代家族の特徴
８．近代家族の揺らぎ・中間試験
９．日本型近代家族と「家」
１０．日本社会の家族変動
１１．現代の子ども事情
１２．恋愛と結婚
１３．日本の婚姻動向と婚姻観
１４．家族の変化と現代的課題・中間試験
１５．まとめ・家族の現代的意味を問う

定期試験
課題レポート：家族生活に関するグループ討議を踏まえての感想レポート，中間試験２回実施：授業の理解度・習得度を測る試験，期末レポート：「私の考える家族論」
試験のフィードバックの方法
中間試験実施後、返却し、解答例・採点基準について説明する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）授業の前日までに，授業中に提示した文献や資料を読んでくるようにしてもらいたい（各回1時間程度）。 （復習）授業で取り上げたトピックスについて，各自で資料や統計などを探して，理解を深めてもらいたい（各回2時間程度）。 （全体）家族にかかわる話題（ニュース・ドラマ・映画・講演会・シンポジウム）に積極的に触れ，参加し，自分なりの家族論を論じられるようになって欲しい。とくに関わりのある映画やニュースを紹介するので、各自掘り下げて理解を深めて欲しい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞ 『現代家族を読み解く12章』，日本家政学会編，丸善出版.
オフィスアワー
オフィスアワー　水曜日　２時限 随時、電子メールで質問を受け付ける。
連絡先
miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項
※受講生が家族に対してどのような意識をもっているかについて，アンケート調査を行う。

ジェンダー論				単位数	2単位
授業コード	41150	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	山下　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本講義では，日常生活において自明視されている「ジェンダー」や「性」にまつわるさまざまな常識・社会現象や社会問題を取り上げ，検討を加える。ジェンダーに関する基本的な理解を深め，さらに、社会・文化的な性のありようを作り出している構造を解き明かし，現代的課題を提示する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ジェンダー問題を自分にひきつけて考えることができる。	主体性
2	日常生活にあふれているさまざまなジェンダー構造に気づき，そこに含まれている問題点を整理することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	ジェンダーにかかわる課題の解決の方策を講ずることができる。	思考・判断・表現力
4	ジェンダー研究に必要な知識を有している。	知識・技能
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題レポート：１０％	1／2
2	期末レポート：３０％	1／2／3／4
3	中間試験２回実施：６０％	2／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．授業の概要説明
２．「ジェンダー」研究の誕生と発展
３．ジェンダー論の基礎① セックスとジェンダー・グループディスカッション
４．ジェンダー論の基礎②ジェンダーとは何か
５．ジェンダー論の基礎③第１波フェミニズム
６．ジェンダー論の基礎④第２波フェミニズム
７．ジェンダーの社会的構築
８．ジェンダー秩序とジェンダー体制・中間試験
９．ジェンダーの再生産
１０．子ども期のジェンダー
１１．メディアとジェンダー
１２．青年期のジェンダー
１３．日常生活のなかのジェンダー
１４．男性学とジェンダー・中間試験
１５．現代社会とジェンダー

定期試験

課題レポート：ジェンダーに関するグループ討議を踏まえての感想レポート，中間試験２回実施：授業の理解度・習得度を測る試験，期末レポート：「身の回りにあるジェンダー問題」

試験のフィードバックの方法

中間試験実施後、答案を返却し、解答例・採点基準等について説明する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

　授業の前半部分では，ジェンダー研究の基本的な文献を紹介するので，それらを読んで理解を深めてもらいたい（各回3時間程度）。
　後半部分では，さまざまなトピックを取り上げて紹介するので，それらに関して各自で調べるなど，発展的な理解に結びつけるよう授業外学習を行なってもらいたい（各回3時間程度）。
授業では、ジェンダーに関わるニュースを取り上げたり、映画などを紹介するので、各自掘り下げて理解を深めて欲しい。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
　参考文献・資料等については講義中に指示する。
　適宜資料を配布する。

オフィスアワー

オフィスアワー　水曜日　２時限
　　随時、電子メールで質問を受け付ける

連絡先

miki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

講義中心であるが，グループ討議や発表の機会を取り入れることもある。

社会調査論Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	41190	科目ナンバリング	250B0-1200-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	濱西　栄司				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

社会調査は，研究課題の設定，データの収集と分析・解釈，結果の公表というプロセスを通して，社会についての認識をより深くするための重要な方法のひとつである。本講義では，社会調査の開始から量的・質的データ収集作業の準備段階までの過程を学ぶことにより，社会調査の意義や目的，手法など，社会調査の基礎的な知識を身につけ，正しい方法で調査を実施することの重要性を理解する。また，さまざまな手法でおこなわれている社会調査の実際例を学ぶとともに，既存の社会調査の結果を批判的に読み取る力を養う。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会調査の意義や目的，とりわけ研究における社会調査の位置づけについて，正しく理解し，説明できる。	知識・技能
2	さまざまな社会調査の手法とデータの種類を理解し，目的に応じて適切な調査を設計することができる。量的・質的データのそれぞれの利点と限界を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	問いの設定から仮説を構成するまでのプロセスを説明することができる。社会調査における「変数」の位置づけについて理解している。	思考・判断・表現力
4	既存の社会調査にはどのようなものがあるのかを知り，それらの結果を，正しく，批判的に読み取ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	データの扱いやプライバシーへの配慮など，社会調査を実施する者が身につけていなければならない調査倫理について指摘することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末筆記試験：55%	1／2／3／4／5
2	リアクションペーパー：15%	1／2／3／4／5
3	中間試験：30%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. イントロダクション
2. 社会調査の意義と目的
3. 社会調査の歴史と調査の諸類型
4. 社会調査の技法とデータ収集方法
5. 社会調査の諸問題
6. 既存の調査資料の活用とアクセス
7. 概念定義と仮説構成
8. 社会調査の計画と調査の過程
9. 問題意識の明確化と仮説の構成
10. 仮説の構成
11. 社会調査の実例：国勢調査と官庁統計
12. 社会調査の実例：世論調査と学術調査
13. 社会調査の実例：質的調査
14. データの収集と分析、公表
15. まとめ

期末筆記試験

定期試験

期末筆記試験

試験のフィードバックの方法

試験後に，解答例・採点基準について説明する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業前にテキストを読んで予習をするとともに，授業後はノートを読み直したり，授業内容と対応するテキストの箇所を読むなどして，知識を確実なものにしていくことが大切である。授業を振り返り，ノートをまとめるための時間として，毎回，1～2時間程度の復習を求める。授業中に紹介する参考図書等も積極的に読んでほしい。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
大谷信介他編，2013，『新・社会調査へのアプローチ――論理と方法』，ミネルヴァ書房（ISBN：9784623066544）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
盛山和夫，2004，『社会調査法入門』有斐閣
佐藤郁哉，2006，『フィールドワーク 増訂版――書を持って街へ出よう』新曜社
その他，講義時間中に随時紹介する。

オフィスアワー

メールによる質問、または金曜の12時30分～13時（事前にEメールで予約すること）。
オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。

連絡先

hamanishi@post.ndsu.ac.jp

留意事項

本授業は社会調査士資格に関わる科目であるが，資格取得意思の有無に関わらず，社会学的な分析視角と手法を習得しようとする者は積極的に受講してほしい。また，自身の研究や日常生活の中でも，授業で得た知識を活用・応用していく姿勢を身につけてもらいたい。

社会調査論ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	41230	科目ナンバリング	250B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	金　政芸					
時間割備考	9/4～6					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

社会調査は基本的に社会の現状を把握するために行われるものだが、その目的と方法は調査によって異なる。本講義では、調査票調査を中心にして社会調査の企画、サンプリング、調査票の作成、調査の実施、データの作成と保存、調査結果の報告について解説する。これにより、社会調査の実施に必要な具体的な方法を理解することを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会調査の目的に合った調査方法を理解し、具体的に説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力
2	社会調査の企画と実施に関する方法を理解し、具体的に説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力
3	調査票を作成する方法と注意点を理解し、具体的に説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力
4	調査データの作成の方法を理解し、具体的に説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力
5	作成したデータの適切な管理方法と公開方法について理解し、データの扱いに際して慎重な態度をもつことができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎回の授業後のレポート：70%	1／2／3／4／5
2	毎回の授業後のリアクションペーパー：30%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 社会調査の基礎（１）：社会調査の定義と必要性
2. 社会調査の基礎（２）：社会調査の種類
3. 社会調査の基礎（３）：量的調査と質的調査、社会調査と統計学
4. 社会調査の企画（１）：社会調査の全体的な流れ
5. 社会調査の企画（２）：変数の定義と尺度水準、ものごとを変数として捉えること
6. 社会調査の企画（３）：問と仮説の立て方
7. サンプリング（１）：無作為抽出
8. サンプリング（２）：サンプリングの実際
9. 調査票の作成（３）：ワーディング ① － 設問の構成、回答方法
10. 調査票の作成（４）：ワーディング ② － ワーディングの注意点
11. 調査票の作成（５）：調査票全体の構成
12. 調査の実施：調査実施の方法、調査時の注意点
13. データの作成（１）：エディティング、コーディング
14. データの作成（２）：アフターコーディング、エラーチェック
15. データの保存と調査結果の報告

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業前に、事前に配布したプリントを読んで予習をするとともに、授業後はノートやプリントを読み直して、知識を確実なものにしていくことが大切である。毎回30分程度の予習と、1～2時間程度の復習を求める。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 『社会調査法入門』, 2004年, 盛山和夫, 有斐閣. 『入門・社会調査法』, 2010年, 轟亮・杉野勇編, 法律文化社.
オフィスアワー
オフィスアワーは設けない。質問がある場合は、授業終了後に個別に質問してください。
連絡先
留意事項
本授業は社会調査士資格に関わる科目であるが、資格取得意思の有無に関わらず、社会学的な分析視角と手法を習得しようとする者は積極的に受講してほしい。また、自身の研究や日常生活の中でも、授業で得た知識を活用・応用していく姿勢を身につけてもらいたい。 　質問等は授業終了後に対応する。授業中でも遠慮せずに尋ねてもらってかまわない。

社会調査論ＩＩＩ					単位数	2単位
授業コード	41260	科目ナンバリング	250B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	二階堂　裕子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

社会調査法を大別すると、量的なデータを扱う方法と質的なデータを扱う方法の2つに分類される。この授業では、後者の「質的調査法」を取り上げ、質的なデータの収集と分析の方法を学ぶ。また、質的調査を実施するうえでふまえておくべき倫理問題や、質的調査の応用の可能性について理解する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	質的調査の考え方やその意義について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	さまざまな質的調査の技法と分析の方法、および質的調査のプロセスについて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	質的なデータの収集とそれらの分析を実行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー（授業で学んだことや意見）：30%	1／2
2	期末レポート：70%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. オリエンテーション
2. 質的調査の考え方
3. 調査技法1：フィールドワーク
4. 調査技法2：参与観察法（1）
5. 調査技法3：参与観察法（2）
6. 調査技法4：インタビュー（1）
7. 調査技法5：インタビュー（2）
8. 調査技法6：ワークショップ
9. 分析技法1：ライフヒストリー分析
10. 分析技法2：ドキュメント分析
11. 質的調査の実践1：調査の企画
12. 質的調査の実践2：データの収集
13. 質的調査の実践3：分析と報告
14. 質的調査と倫理
15. 質的調査の応用

定期試験
第15回の授業終了後、期日までにmanaba folioにてレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
manaba folioに模範解答を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（復習）授業で扱った内容について、自分のノートや配布した資料を熟読し、理解を深めておくこと（毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『よくわかる質的社会調査　技法編』，谷富夫・芦田徹郎編著，ミネルヴァ書房，2009年，978-4-623-05273-8
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 授業中に、適宜資料を配布するほか、参考書なども紹介する。
オフィスアワー
質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。
連絡先
nikaidoy@m.ndsu.ac.jp
留意事項
資格に関わる科目でもあり、遅刻・欠席は厳禁とする。

社会統計学Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	41300	科目ナンバリング	250B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	金　政芸					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

この授業では、計量的なデータを読み解くための基礎知識と技法について学習する。統計の考え方を理解し、記述統計の基礎知識を身につける。具体的には、変数の種類、データの図表化、代表値、分散と標準偏差、相関係数、回帰直線などについて講義がなされる。また政府や国際機関の統計資料の収集や整理についても学ぶ。さらに、統計分析の結果をExcelなどを利用して表やグラフとしてまとめる方法についても学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	官庁統計を含む二次データの検索ができ、それを利用して図表の作成ができる	知識・技能／思考・判断・表現力
2	度数分布表、平均、分散など変数の分布を記述する方法を理解し、それらを算出して作成できる	知識・技能／思考・判断・表現力
3	クロス表、平均の差、相関係数、回帰分析など2変数間の関係を記述する方法を理解し、それらを算出して作成できる	知識・技能／思考・判断・表現力
4	相関関係、因果関係など変数間の関係を理解し、疑似関係や媒介関係などについて説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力
5	Excelなどを利用して分析結果の表やグラフを作成でき、統計データを用いたレポートを作成できる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	期末筆記試験：60%	1／2／3／4／5
2	授業中の提出課題：30%	1／2／3／4／5
3	授業中の取り組みと実習：10%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1.　イントロダクション
2.　社会調査と統計学
3.　二次データの利用（１） － 個票データと集計データ、官庁統計の概要と探し方
4.　二次データの利用（２） － 官庁統計の活用法
5.　変数の種類と仮説の立て方 － 変数の尺度水準、理論仮説と作業仮説
6.　変数の分布を説明する（１） － 度数分布表、代表値（平均、中央値、最頻値）
7.　変数の分布を説明する（２） － 散布度（分散、標準偏差、変動係数）
8.　質的変数と質的変数の関連を説明する － クロス表
9.　質的変数と量的変数の関連を説明する － 平均、分散の比較
10.　量的変数と量的変数の関連を説明する（１） － 散布図、相関関係
11.　量的変数と量的変数の関連を説明する（２） － 相関係数
12.　量的変数と量的変数の関連を説明する（３） － 相関関係と因果関係、疑似関係、媒介関係
13.　量的変数と量的変数の関連を説明する（４） － 回帰分析①
14.　量的変数と量的変数の関連を説明する（５） － 回帰分析②
15.　まとめ
期末筆記試験

定期試験
期末筆記試験
試験のフィードバックの方法
試験終了時に、解答の一部を口頭で伝える。また、試験後の問い合わせに対応する。 提出物については、授業中に全体の講評をし、個別の問い合わせにも対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回、テキストとしてプリントを配付する。授業では、講義とともにコンピュータを用いた演習も随時行う。授業後は、ノートやプリントを読み直して知識を確実なものにするだけでなく、手計算をしたり、コンピューターを操作しながら習することも必要である。毎回、1～2時間程度の復習時間を作り、前回の授業内容をマスターしたうえで次回の授業に臨むこと。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 講義時間中に随時紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワーは設けない。質問がある場合は、授業終了後に個別に質問してください。
連絡先
留意事項
本授業は社会調査士資格の取得に必要な科目であるが、資格取得意思の有無に関わらず、量的データの収集・分析手法や、表やグラフの作成方法を習得しようとする者は積極的に受講してほしい。 　授業は、講義とともにコンピュータを使用しての演習をおこなう。 　質問等は授業終了後に対応するが、授業中でも遠慮せずに尋ねてもらってかまわない。特に、演習中にわからない点は、わからないまま放置せず、必ずその場で質問すること。 　数字に対する苦手意識を持たず、演習に積極的に取り組んで理解を深めてもらいたい。また、授業で得た知識を、自身の研究や日常生活の中で社会調査のデータを読む際にも活用・応用していく姿勢を身につけてもらいたい。

社会統計学ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	41310	科目ナンバリング	250B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	山本　圭三					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

計量的データをもちいた分析は，統計学的な裏づけによって支えられている。この講義は，計量的な調査データを用いた実証研究に必要な統計的知識を学ぶものである。具体的に取り上げる内容は，変数の種類，代表値，Σ，分散と標準偏差，相関係数，回帰直線，確率変数，確率分布，正規分布，t分布，χ2分布，母平均・母分散の推定，帰無仮説，平均の差の検定，母相関係数の検定，独立性の検定，エラボレーションなどで，これらを体系的に習得することが本講義の目的である。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	確率変数・確率分布について説明できる。	知識・技能
2	確率分布を用いた推定をおこなうことができる。	知識・技能
3	統計的仮説検定の原理について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	統計的仮説検定が適切に使い分けられる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末筆記試験（正確な理解度、実践的な応用、概念・原理の論理的説明力を問う）：80%	1／2／3／4
2	提出物等（正確な理解度を問う）：20%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. イントロダクション
　―講義に関する注意事項
2. 基礎的知識1
　―変数の種類，尺度水準，Σ
3. 基礎的知識2
　―基本統計量（平均値・中央値・最頻値・分散・標準偏差），相関係数，回帰直線
4. 確率1
　―確率と確率変数
5. 確率2
　―確率変数の期待値，分散
6. 確率3
　―同時確率変数，同時確率変数の独立性
7. 確率4
　―二項分布
8. 確率5
　―正規分布，t分布，χ2分布
9. 推測統計の基礎1
　―母集団と標本，推定の考え方
10. 推測統計の基礎2
　―母平均，母分散の推定
11. 推測統計の基礎3
　―信頼区間
12. 統計的仮説検定1
　―母相関係数の検定
13. 統計的仮説検定2
　―平均の差の検定
14. 統計的仮説検定3
　―クロス表の独立性の検定
15. エラボレーション
期末筆記試験

定期試験
期末筆記試験
試験のフィードバックの方法
試験終了後の時間を利用して、問題の意図と回答例について解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・授業毎に小課題を設定する場合は、次の授業までに課題を終わらせておくこと（30分程度）。 ・次の授業までに配布された資料を精読し、理解できていない箇所をなくしておく（30分程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞なし ＜参考文献＞適宜紹介する
オフィスアワー
毎授業終了時に，教室にて質問を受け付ける。
連絡先
yamamoto@kjo.setsunan.ac.jp
留意事項
授業形態に関しては、予定から変更されることがある。変更する場合はmanaba等を通じて事前に連絡する。

現代社会学特講Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	41330	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	二階堂　裕子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では、国境を越えて移動する労働者について学ぶ。その目的は、グローバル化の影響のもとで生じる社会現象や社会問題を社会学的な視点から読み解く力を培うこと、また、その過程で自己の価値観を相対化し、新たな視点を獲得することにある。まず、国際的な労働力移動に関する研究動向を概観し、こうした現象を捉えるための基礎知識を身につける。次に、日本の国際移動をめぐる歴史的経緯や背景について理解する。続いて、日本社会における外国人の労働現場に目を向け、外国人の就労実態や日本人との関係のありようを検討する。以上を通して、国際労働力移動をめぐる諸現象や諸問題が、そこに関わる人々の意識や行動とどのように関わり合っているのかについて考察する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	国際的な労働力移動を促す要因を、多面的・包括的に説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	国際的な労働力移動をめぐる問題について、論理的に洞察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	グローバルな社会現象を、自分自身の生活と関連させながら主体的・批判的に考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎回の小課題（授業で学んだことや意見）：30%	1／2／3
2	期末レポート：70%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 国境を越えたグローバルな労働力移動
2. 歓迎される移民と排除される移民
3. 国際労働移動とジェンダー
4. 世界都市における分極化
5. 日本社会と移民
6. 日本人の海外移住
7. 日本における産業構造の変化と労働市場開放
8. デカセギ日系人の流入
9. 日系人の顔の見えない定住化
10. 外国人技能実習制度の現状と課題
11. 技能実習生の就労現場
12. 技能実習生の受け入れ政策
13. 送出国からみた外国人技能実習制度
14. 「食の外部化」と外国人労働者
15. 介護現場の外国人労働者

定期試験
第15回の授業終了後、期日までにmanaba folioにてレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
manaba folioに模範解答を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（復習）授業で扱った内容について、配布した資料を熟読するほか、新聞などの情報を収集し、自分の見解をまとめておくこと（毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 講義中に適宜資料を提示するほか，参考書なども紹介する。
オフィスアワー
質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。
連絡先
nikaidoy@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自分をとりまく社会の動向や諸問題に関心をもつこと。

現代社会学特講ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	41340	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	福田　雄					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本講義は宗教と災害というテーマをもとに、現代社会に関する知識を学びます。具体的には、関東大震災、阪神・淡路大震災、東日本大震災といった日本の災害を事例としてとりあげ、そこで宗教がいかなる役割を果たした／果たしえなかったのかを多角的に理解します。授業ではこれまでの災害研究を批判的に検討する姿勢とともに、震災後の社会の成り立ちと仕組みを見通す視野を身につけます。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	「宗教」と「災害」という二つのキーワードについて、社会学的観点から考えるための素養を身につける。	知識・技能
2	災害支援をめぐり生じる困難や災害支援のあり方、宗教と社会の関係について、自己の立場に引き付けながら想像し、応用することができる。	主体性
3	宗教と災害、宗教とと社会との歴史的関係や経緯について理解し、それを踏まえて現代社会の文脈を理解し言語化することができる。	思考・判断・表現力
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	定期試験（90%）	1／2／3
2	リアクションペーパー（10%）	1／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．イントロダクション
２．関東大震災と宗教：帰一協会設立と当時の社会的期待、天譴説
３．関東大震災と宗教：恩寵説と転禍為福
４．社会不安とその正当化：災害時の流言
５．阪神・淡路大震災の特徴
６．阪神・淡路大震災後の宗教教団の活動と「救援と救済のジレンマ」
７．宗教の機能からみた被災地の行事：　阪神淡路大震災と「民衆的儀礼」
８．宗教の機能からみた被災地の行事：　東日本大震災と復興イベント
９．　デュルケーム『宗教生活の基本形態』
１０．阪神淡路大震災とオウム真理教事件後の宗教研究
１１．東日本大震災の特徴と宗教教団による支援活動：「臨床宗教師」と「心の相談室」
１２．政教分離をめぐる歴史的経緯と戦後日本の諸文脈
１３．ソーシャルキャピタル研究と災害
１４．災害と宗教とソーシャルキャピタル
１５．　振り返りとまとめ

定期試験
定期試験。
試験のフィードバックの方法
試験結果に疑義のある人は、個別に解説するのでメールにて連絡すること。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業では毎回、授業内容についてのレジュメを配布します。授業後に、資料等をもう一度熟読して疑問点や理解できなかった点について整理し（60分程度）、リアクションペーパーにて応答したうえで、自分でも調べ翌週の授業にのぞんでください。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈参考書・参考資料〉 原田敏明・鷹谷俊之「震災に關する宗教道徳的観察」『帰一協会会報』第13号 国際宗教研究所編『阪神大震災と宗教』 三木英編著『復興と宗教 震災後の人と社会を癒すもの』東方出版 稲場圭信・黒崎浩行編著『叢書宗教とソーシャルキャピタル4 震災復興と宗教』明石書店 星野英紀・弓山達也編著『東日本大震災後の宗教とコミュニティ』ハーベスト社 藤山みどり 『臨床宗教師―死の伴走者』 高文研 ダニエル・アルドリッチ 『災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割 とは何か』ミネルヴァ書房
オフィスアワー
・質問は随時メールを通じて受け付けます。
連絡先
u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項
毎授業後にmanabaを通じて質問やコメント等を記入してもらい、翌週フィードバックすることで、双方向的な授業運営を取り入れます。 リアクションペーパーの提出期日は、授業翌日の23時55分です。

現代社会学特講ＩＩＩ				単位数	2単位
授業コード	41350	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	濱西　栄司				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

【サブタイトル：環境社会学入門】
　本授業の主な目的は、社会学の専門領域の一つである「環境社会学」の知見について学び、人間と環境の関わりとその歴史、および様々な環境問題の社会的メカニズム／解決策を、理解するための視座と技法を修得することにある。時間的には、前近代の村落から、近代化，戦後高度成長期の経済／環境政策、現代のSDGs（持続可能な開発目標）、さらに、来る脱炭素社会，脱プラスティック社会における世界の政治・経済・文化，われわれの日常生活や地域社会，企業のありようにも触れる。なおテキストとはべつに，岡山・瀬戸内地域の環境問題，気候変動に関する国際会議，開発途上国の環境NGOなどに関する独自の資料・映像等も併せて使用する。
　授業では主にGoogle Classroomを用いて各回の自学習やフィードバック、期末レポートの管理を行う。また自学習を前提として、隣席学生同士（2～3名）で簡単に意見交換する時間を設けるようにしている。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	身近な自然環境との人間の関係性とその歴史について理解し、その概要を説明することができる。	知識・技能／主体性
2	人間と環境の歴史的関係性をふまえて、現代のさまざまな公害・環境問題の原因や解決策について社会学的に考察し、論述することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み：30%	1
2	確認テスト：20%	1／2
3	期末レポート：50%	2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション：社会学と環境社会学
＜第Ⅰ部　人間と環境の関係＞
 2. 人間社会と環境を考える（1章）
 3. 自然保護を考える（2章）
 4. 身近な自然を考える（3章）
 5. 生活と水を考える（4章）
 6. 農と食を考える（5章）
＜第Ⅱ部　環境問題の原因と解決＞
 7. ゴミ問題を考える（6章）
 8. 環境NPO/NGO・ボランティア・市民活動を考える（１）歴史（7章）
 9. 環境NPO/NGO・ボランティア・市民活動を考える（２）現在（7章）
10. まちづくり/地域づくりと環境を考える（8章）
11. 歴史的環境と景観を考える（9章）
12. 公害・差別・リスクを考える（10章）
13. 開発と資源・エネルギー問題を考える（11章）
14. 地球環境問題を考える（12章）
15. 総括：環境社会学とはなにか

定期試験
・確認テストを行う ・期末レポートを課す
試験のフィードバックの方法
Google Classroomを用いて行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）必携のテキストを用いて各回授業の該当章について予習を行い、学んだことや質問をGoogle Classroomのスレッドに記して提出すること（各回2-3時間程度）。
必携書（教科書販売）
鳥越晧之・帯谷博明編，2017，『よくわかる環境社会学（第２版）』，ミネルヴァ書房
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー
メールによる質問、または金曜の12時30分～13時（臨時会議等で留守にする場合があるので事前にEメールで予約すること）。 オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。
連絡先
hamanishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・岡山市や日本政府が実施するSDGs（持続的な開発目標）やESD（持続的な開発のための教育）に関するイベントやインターンシップの機会を積極的に提供していく。

社会調査実習					単位数	4単位
授業コード	41360	科目ナンバリング	250B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	福田　雄					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）	３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本実習の目的は、社会調査の企画・設計から、調査の実施、データ分析、成果の報告に至るまでの全過程を経験しながら、社会調査の実践に必要な知識と技能を習得することにある。具体的には、伝統宗教と地域社会という主題に焦点を当て、寺社や教会と地域社会、貧困や差別といった社会問題との関わり、防災支援活動などについて、質的調査を実施する。本調査を通じて、現代日本の諸問題について伝統宗教の果たす役割や課題について理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会的・学術的意義のある研究テーマを設定することができる。	知識・技能
2	社会調査の企画・設計から，調査の実施，データ分析に至るまでを実行できる。	主体性
3	分析の結果を論理的な文章で表現できる。	思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	平常点（プレゼンテーションの内容，議論や調査への参加状況，共同研究に対する貢献度）：30%	1／2
2	調査報告書のレポート：70%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. ガイダンス
2～5. 宗教と地域社会に関する先行研究のレビュー
6. 具体的な調査テーマの設定
7. 調査対象の検討
8. 調査対象の決定
9～11. 調査対象に関する基礎的データの収集と検討
12. 宗教施設での予備的調査
13. 具体的な調査項目の設定
14. 調査への協力依頼
15. 調査実施のためのガイダンス
16. 調査の結果報告
17～18. データの整理
19～20. データの分析
21～22. データのコーディング作業
23～24. 担当テーマの決定とデータにもとづく考察
25～28. 考察結果の発表
29～30. 調査報告書の作成、実習の総括

定期試験
実習の最終段階で調査報告書を作成するため、履修者は全員、調査から得られたデータの分析と考察の結果をまとめた原稿を執筆する。詳細は授業中に説明する。
試験のフィードバックの方法
最終回の授業で、実習全体と報告書についての総括を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習） ・1期は，先行研究の検討，テーマの設定，調査の企画を進めるにあたり，指示される作業を行ったうえで，プレゼンテーション用のレジュメを作成する（毎回3時間程度）。 ・2期の前半では，調査によって収集したデータとそれらの分析結果を報告するにあたり，指示される作業を行ったうえで，プレゼンテーション用のレジュメを作成する。さらに後半では，調査報告書のレポート作成に取り組む（毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 『よくわかる質的社会調査　技法編』谷富夫・芦田徹郎編著（ミネルヴァ書房，2009年）は，適宜，各自が用意する。 その他，授業中に研究テーマに関連する文献を紹介するとともに，必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー
質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。
連絡先
u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項
2年次終了までに，社会調査関連5科目（社会調査論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，社会統計学Ⅰ・Ⅱ）のうち，2科目以上単位取得していることを，本実習の履修用件とする。

社会史原論				単位数	2単位
授業コード	41510	科目ナンバリング	250B0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	轟木　広太郎				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

社会史とは何か，歴史学研究とは何か，それらは一体何をめざすものかについて、ヨーロッパ社会史を対象として講義する。前半は、代表的なテーマを二つ取り上げて、社会史の実例を詳細に示し、後半は、ヨーロッパ社会史を20世紀前半から牽引してきたフランスのアナール学派について紹介する。高校までの世界史教科書ではふれることの少ない歴史の多様さと奥行きを考える。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会史研究とはいかなるものかについて、テーマの多様性と方法論の基礎を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	高等学校までに学んできた歴史とのつながりあるい相違点を理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	社会史研究のこれまでの流れ（研究史）についての基礎的な知見を獲得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	平常点（15%）	1／2／3
2	レポート（85%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. イタリア・ルネサンスの社会史；芸術家とは？
2. イタリア・ルネサンスの社会史；公的パトロン
3. イタリア・ルネサンスの社会史；私的パトロン
4. イタリア・ルネサンスの社会史；芸術家の世界
5. 古代ローマの「パンとサーカス」；「パン」
6. 古代ローマの「パンとサーカス」；「サーカス」
7. 古代ローマの「パンとサーカス」；政治と食料・娯楽
8. 古代ローマの「パンとサーカス」；権力者の栄光
9. 古代ローマの「パンとサーカス」；死後世界
10. アナール学派の歴史家；そのはじまりと展開
11. アナール学派の歴史家；リュシアン・フェーヴル
12. アナール学派の歴史家；マルク・ブロック
13. アナール学派の歴史家；フェルナン・ブローデル
14. アナール学派の歴史家；フィリップ・アリエス
15. アナール学派の歴史家；アラン・コルバン

定期試験
レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回配布するプリントには、さまざまな文書資料や図像資料が含まれている。事前に目を通し、授業の概要について、漠然とでかまわないのでイメージを描くようにしてほしい。また、その日の内容に関連する事項については、教員の指示する参考文献などを参照して、自分の関心を深めていくことが求められる（合わせて毎回1時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
毎回の授業で資料教材を配布する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
ktodoroki@post.ndsu.ac.jp
留意事項

日本社会史Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	41530	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	西尾　和美					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業の目的は、日本社会の原始・古代から中世までの歴史を中心に、中学・高校までの日本史では学習することの少なかった諸問題に、史料を通して目を向けることにある。前半では、女性の地位や労働を含めて、原始・古代社会の全体像を理解する。後半では、中世社会像を武士のイメージに限定せず、中世社会のしくみと暴力・武力・戦争との深い関わりを理解する。また諸災害にも目を向け、時代を生きた人々のつながりと知恵や行動を知る。なお、前半・後半ともに、講義は、前後の時代、近現代社会との比較にも言及しつつ行う。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	日本社会の原始・古代、中世の基本的歴史知識を説明できる。	知識・技能／主体性
2	日本社会の原始・古代の歴史について、女性を含めた全体像を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	日本社会の中世の歴史について、武士にとどまらない全体像を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	歴史と現代を比較し、自分の考えを述べることができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート１　45%	1／2／4
2	レポート２　45%	1／3／4
3	小課題提出など授業への取り組み10%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．はじめに-「日本史」とその時代区分
２．原始・古代社会と女性の地位
３．女性の首長と王たち
４．卑弥呼と推古天皇の間-伝承の中の女性たち
５．女性天皇関係系図を読む
６．推古天皇、皇極・斉明天皇、持統天皇-天皇の妻が天皇になった時代
７．持統太上天皇、元明天皇、元正天皇-天武嫡流継承の実現と藤原氏の台頭
８．律令税制と女性労働
９．平安王朝とジェンダー摂関政治と国母
10．中世社会と構成する諸勢力-公家・武家・寺社
11．宗教者に見る中世の戦争と地域社会
12．戦争の時代と人びとの願い
13．中世社会と諸災害
14．中世社会を生きる知恵と行動
15．総括　振り返りとポイント

定期試験
レポート１（9回目の授業時に詳細を連絡。後日、期限までに提出）。 レポート２（15回目の授業時に詳細を連絡。後日、期限までに提出）。
試験のフィードバックの方法
manaba掲示板において、教員からの講評を述べる。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）授業で取り上げることがらについて、中学・高校の教科書を読み返すなど、自分にできる範囲で事前に予備知識をつけて授業にのぞむこと（45分程度）。 （復習）授業後は配付レジュメやノートにより復習し、知識を自分のものにすること（45分程度）。また、授業内で紹介する参考文献も積極的に読んで、主体な関心を育ててほしい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし。特定のテキストは使用しない。レジュメを配付する。 ＜参考書等＞ 参考文献は随時、授業中に紹介する。 なお、授業理解を助けるため、適宜、毎時間、高校までの教科書などの関係ページを参照しながら、受講して構わない。
オフィスアワー
各回授業終了後にリアクションペーパーの提出・質問を、manabaのレポート機能により受け付ける。 回答はmanaba掲示板により全体に提示する。 その他、授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
nishio@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・各回の授業終了後、manabaのレポート機能を通じてリアクションペーパー・質問を回収する。質問への回答はmanaba掲示板にて配信する。 ・レポート提出もmanabaのレポート機能によって行う。 ・そのため、履修登録後はmanabaのコースニュース、掲示板、レポート通知のリマインダメールの受信設定を必ず〇にしておくこと。

日本社会史ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	41540	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	久野　洋					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では、近世から近現代にかけての日本社会の具体的ありようと、その変容過程について考察する。高等学校までの日本史の中心的な話題は、政治権力や政策レベルの歴史だったかもしれない。この授業では、とりわけ村や都市といった地域社会と国家・権力との関係を捉えることで、日本社会の歴史的展開をより深く理解することを目指す。その際、史料にもとづきながら、地域に生きた人々が抱えた矛盾・葛藤を具体化し、各時代における社会のゆがみを見定めることに注力する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	国家と社会の相互関係に留意しながら、日本社会がどのように変化して現在に至るかをたどり、大きな歴史の流れのなかに個別の歴史事象を位置付けることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	史料を通して、地域に生きた人々が抱えた矛盾や葛藤を具体的に読み取り、そこから近世・近代の日本社会の特徴を考察・説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	現代社会が直面する諸問題について、歴史的経緯を踏まえて考え、自分の意見を整理することができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	レポート：50%	1／2
2	リアクションペーパー・授業への取り組み度・小テスト：50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．はじめに
２．徳川社会を生きる
３．徳川システムのゆらぎ
４．開国と幕末社会−地域の視点から−
５．近代化と地方名望家
６．近代化と地域の民衆
７．明治社会を生きる
８．「家」と農村の女性
９．小括（小テスト）
10．都市民衆騒擾の時代
11．第一次世界大戦後の大衆社会化
12．恐慌の時代
13．民衆はなぜ戦争に「協力」したのか
14．総力戦体制下の矛盾
15．むすび

定期試験

期末レポート。詳細は授業中に説明する。

試験のフィードバックの方法

授業中に指示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回授業の終わりにその回の要点と、次回のテーマを示すので、復習と予習をかねて、参考書や高等学校の日本史教科書の該当箇所を読むようにすること。授業で興味のもてる事柄を見つけたら、各種文献を読むなど、自分で積極的に関連事項を調べてほしい（毎回合わせて3時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書＞
・渡辺尚志『百姓の力ー江戸時代から見える日本ー』（柏書房、2008年／角川ソフィア文庫、2015年）
・松沢裕作『生きづらい明治社会ー不安と競争の時代ー』（岩波ジュニア新書、2018年）
・季武嘉也編『日本の近現代ー交差する人々と地域ー』（放送大学教育振興会、2015年）
・大門正克『戦争と戦後を生きる』（小学館、2009年）
その他の文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

授業中に指示する。

連絡先

hisano@m.ndsu.ac.jp

留意事項

授業で取り上げる対象・テーマは、現代に生きる私たちが直面する問題に通ずる部分も多い。現代社会の問題に対して常にアンテナを張り続けてほしい。

アジア社会史Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	41550	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	鈴木　真					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

　かつて中国には，千四百年にわたって実施された科挙と呼ばれる制度が存在した。この制度は王朝を支える官僚候補生の代表的な選抜・任用制度であったが，前近代中国社会における人びとの思想や文化・習俗を色濃く反映していた。そのため，なぜこのような制度が必要とされたのか，その制度とはいかなるものであったのか，そして人びとにどのような影響を及ぼしたのかという問題の解明は，中国の歴史・社会そのものを知ることに繋がる。
　以上のような問題意識のもと，本授業では科挙を題材としてとりあげ，古代～近代における儒教や知識人の世界を中心に講義する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	古代～近代における中国の漢人社会を生きた人々が，どのような社会のしくみの中で，どのような文化を営んでいたのか，専門用語を用いて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	上記の内容を，科挙や宗族などを事例として具体的に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	小レポート：10%	1／2
2	期末試験：90% （持込み不可の長文論述試験を，対面でおこなう）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1．中国社会における王朝と民衆とのかかわり
2．県と郷村
3．中国における官僚登用の歴史（1）―漢
4．中国における官僚登用の歴史（2）―魏晋
5．中国における官僚登用の歴史（3）―隋唐
6．中国における官僚登用の歴史（4）―宋
7．科挙合格と官僚任官による社会的成功
8．士大夫の理念
9．民衆と胥吏と官僚
10．科挙合格までの長い道のり
11．科挙の盛行と宗族の発展
12．宗祠・族譜・義荘
13．科挙と移住
14．科挙の廃止と近代中国
15．科挙は近現代の中国社会に何をもたらしたか

定期試験

第16回に期末試験（長文論述形式，持込不可，対面）をおこなう。

試験のフィードバックの方法

解説をおこなう。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回資料プリントを配付するので，講義の前後に熟読して内容を把握し，わからない用語や概念については各自調べておくこと。また関係する書籍を読み，理解を深めておくこと（毎回3時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞

参考文献は講義中に適宜紹介する。また毎回資料プリントを配付する。

オフィスアワー

月曜日の4時限（14:45～16:15）

連絡先

suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp

留意事項

講義中，指名しての発言を求めることがある。
成績評価，および出欠管理は厳格におこなう。
期末試験は，長文論述形式でおこなう（持込不可・対面）。ただし情況によってはレポート課題に変更することもある。

アジア社会史ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	41560	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	鈴木　真				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

中国史上における民衆蜂起やアウトローたちの世界について取り上げ，官僚や知識人の世界とは異なる中国社会について講義する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	中国史上における民衆の蜂起について，その特徴や歴史的役割を，専門的な用語を用いて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	中国社会における民衆のネットワークについて，その特徴やそれらが果たした歴史的役割について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	小レポート：10%	1／2
2	期末試験：90% （持込み不可の長文論述試験を，対面でおこなう）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1．中国社会の「士」と「庶」
2．中国社会の民衆
3．中国社会のネットワーク
4．墨家と道家の思想
5．民衆と宗教
6．中国史における塩と塩商人
7．塩の専売と私塩
8．唐宋時代の社会変容
9．江湖の人びと
10．廟と財神
11．血縁と結義
12．筆記の中の神さま
13．清代の秘密結社
14．結社と革命
15．まとめ

定期試験

第16回に期末試験（長文論述形式・持込不可・対面）をおこなう。

試験のフィードバックの方法

解説をおこなう。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回資料プリントを配付するので，講義の前後に熟読して内容を把握し，わからない用語や概念については各自調べておくこと。また関係する書籍を読み，理解を深めておくこと（毎回3時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞

参考文献は講義中に適宜紹介する。また毎回資料プリントを配付する。

オフィスアワー

月曜日の4時限（14:45～16:15）

連絡先

suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp

留意事項

講義中，指名しての発言を求めることがある。
成績評価，および出欠管理は厳格におこなう。
期末試験は，長文の論述形式でおこなう（持込不可・対面）。ただし情況によってはレポート課題に変更することもある。

ヨーロッパ社会史Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	41570	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	轟木　広太郎				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

古代から現代にかけて、ヨーロッパ社会史のさまざまなテーマを取り上げる。前半から中盤にかけては、古代から現代にいたるまで時代別に固有のテーマを設定するが、後半は、アナール学派の代表的歴史家のある研究を詳細に紹介するという形式で進める。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ヨーロッパ社会史のテーマの広がりと方法について多角的な知見を獲得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	文書や図像の資料を歴史的な脈絡に即して読解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	平常点（15%）	1／2／3
2	レポート（85%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 古代末期の社会史；殉教者崇敬
2. 中世の社会史；聖遺物崇敬のはじまり
3. 中世の社会史；聖遺物崇敬の発展
4. 中世の社会史；修道生活
5. 中世の社会史；騎士と封建社会
6. 中世の社会史；騎士文化
7. アンシャンレジームの社会史；近世における国王儀礼
8. アンシャンレジームの社会史；ガリカニスムのもとでのカトリック教会
9. フランス革命の社会史；非キリスト教化
10. フランス革命の社会史；習俗の革命
11. フランス革命の社会史；革命祭典
12. フィリップ・アリエスの「死の社会史」；中世
13. フィリップ・アリエスの「死の社会史」；近世
14. フィリップ・アリエスの「死の社会史」；近代
15. フィリップアリエスの「死の社会史」；現代

定期試験
レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回配布するプリントには、さまざまな文書資料や図像資料が含まれている。事前に目を通し、授業の概要について、漠然とでかまわないのでイメージを描くようにしてほしい。また、その日の内容に関連する事項については、教員の指示する参考文献などを参照して、自分の関心を深めていくことが求められる（合わせて毎回1時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
毎回の授業で資料教材を配布する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
ktodoroki@post.ndsu.ac.jp
留意事項

ヨーロッパ社会史ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	41580	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	轟木　広太郎				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

ヨーロッパ史における「罪と罰」「犯罪と刑罰」を取り上げる。千数百年の間に正義と悪の問題がヨーロッパ社会のなかでどのように移り変わってきたかを検討する。前半は宗教世界、後半は世俗世界が対象となる。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ヨーロッパ社会史のテーマの広がりと方法について多角的な知見を獲得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	文書や図像の資料を歴史的な脈絡に即して読解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	平常点（15%）	1／2／3
2	レポート（85%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 宗教世界の罪と罰
2. 古代末期の贖罪
3. 中世前期の贖罪
4. 中世後期・近世の贖罪
5. あの世の裁き
6. 異端審問
7. 魔女と悪魔
8. 中世前期；神判
9. 中世盛期；罰金刑
10. 近世；身体刑
11. 近世；国王の正義
12. 18世紀の刑法改革
13. 近現代；監獄刑
14. 近現代；一望監視
15. 近現代；犯罪学

定期試験
レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回配布するプリントには、さまざまな文書資料や図像資料が含まれている。事前に目を通し、授業の概要について、漠然とでかまわないのでイメージを描くようにしてほしい。また、その日の内容に関連する事項については、教員の指示する参考文献などを参照して、自分の関心を深めていくことが求められる（合わせて毎回1時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
毎回の授業で資料教材を配布する。
オフィスアワー
授業中に示します。
連絡先
ktodoroki@post.ndsu.ac.jp
留意事項

地域社会史				単位数	2単位
授業コード	41590	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	久野　洋				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

岡山地域の歴史的特質とは何かについて、各時代の主要なテーマをとりあげて通時的に考察する。そのことを通じて、岡山地域だけでなく地域の歴史をどう捉えていくか、新たな見方を提示することをめざす。あわせて、地域に残る歴史遺産と現代社会との関係についても考える。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	地域史研究の方法について理解し、自分の意見を整理できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	各時代の岡山地域の歴史的特質について、具体的な事例にもとづいて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	現代の地域社会が直面する諸問題について、歴史的経緯をふまえて考え、自分の意見を整理できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	期末試験：45%	1／2／3
2	調査レポート：40%	1／2／3
3	リアクションペーパー・授業への取り組み度：15%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

基本的に以下の流れで進める予定だが、受講生の関心によっては変更もありえる。
１、郷土史、地方史から地域史へ
２、地域史と時代区分：岡山地域史をどうみるか
３、荘園の世界①
４、荘園の世界②
５、瀬戸内海の中の岡山
６、城と城下町：岡山と津山の場合
７、近世の地域開発：新田開発と塩田開発を例に
８、近世の地域運営：倉敷の場合
９、さまざまな明治維新と岡山県の成立
10、戦争と岡山①：日清・日露戦争と第17師団
11、帝国日本の中の岡山
12、戦争と岡山②：アジア・太平洋戦争と清心高等女学校
13、地域女性史を再考する
14、戦後地域開発を再考する
15、地域歴史遺産と現代社会：史料ネット運動へ

定期試験
期末試験：授業の理解度・習得度を測るもの 調査レポート：第2回授業で説明予定
試験のフィードバックの方法
授業中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で興味のもてる事柄を見つけたら、復習と予習をかねて、各種文献を読むなど、自分で積極的に関連事項を調べること（毎回2時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisano@m.ndsu.ac.jp
留意事項
地域に残る歴史の痕跡に目をこらし、自分なりにいろいろと調べてほしい。

宗教社会史					単位数	2単位
授業コード	41600	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	尾崎　秀夫					
時間割備考	9/11～9/15					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

ローマ皇帝の対キリスト教政策を検討する。通説ではローマ皇帝はネロからディオクレティアヌスに至るまでキリスト教徒を厳しく迫害し続けたとされる。しかし、近年の研究では、迫害を命じた皇帝はごく少数であり、皇帝による迫害が行われた期間も非常に短かったことが明らかとなっている。では、彼らはいかなるキリスト教政策を採ったのか。ローマ帝国におけるキリスト教迫害とはいかなるものであったのか。また、当時のキリスト教徒はどのように暮らしていたのか。これらの問題を考察することによって、通説を検討・批判して新たな歴史像を描いていくという歴史学の営みを学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会と宗教の関係について、その歴史的事象と通説について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	歴史とは過去の事実を記憶する学問ではなく、通説を再検討、批判し、新しい歴史像を描こうとするものであるという歴史学の本質について述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	古代ローマ史の概略を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	ローマ皇帝がどのようにキリスト教徒を迫害したかを説明できる。	思考・判断・表現力
5	ローマ皇帝の対キリスト教政策の変遷について、根拠を明示して自分の意見を開陳できる。	知識・技能／思考・判断・表現力

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への参加状況：50%	1／2／3／4／5
2	レポート：50%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1．イントロダクション
2．ローマの歴史（イタリア半島統一まで）
3．ローマの歴史（帝国成立まで）
4．ユダヤ人の歴史（イエスの誕生まで）
5．ネロの迫害（ネロの生涯と史料）
6．ネロの迫害（タキトゥス、スエトニウスを中心に検討）
7．ドミティアヌスの迫害
8．小プリニウスとトラヤヌスの勅令
9．１～２世紀のローマ帝国におけるキリスト教迫害の実態
10. 軍人皇帝時代
11. デキウス帝とウァレリアヌス帝の迫害
12. ガリエヌスの平和令
13. ディオクレティアヌス帝の迫害（その実態）
14. コンスタンティヌス帝による公認
15. キリスト教の国教化

定期試験
課題レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
manabaを使用。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業開始以前に高校の世界史の教科書のローマ帝国にかんする部分を読んでおくこと。 毎日、授業内容を、通説との違いを確認しながら復習すること。 時間計60時間。
必携書（教科書販売）
使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 弓削達『ローマ帝国とキリスト教』、1989年、河出書房新社など。 他は、講義で紹介する。 講義ではパワー・ポイントを使用する。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
ozaki@kaisei.ac.jp
留意事項

女性史				単位数	2単位
授業コード	41610	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	西尾　和美				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会におけるジェンダー研究の進展に比べ、高校までの歴史教科書では女性人名が登場することすら少なく、メディアでは歴史上の男女像が固定的に再生産され続けている。本授業では、自分の生きているそのような現代日本社会を見つめ直すことから出発し、近代社会以降においてこそ、固定的な性別役割分業観と、異性愛の優位と正統化が進むことを指摘する。その上で、前近代社会を江戸から平安へと時代を遡り、固定的な男女像に収まり切らぬ現実の人々の存在とその葛藤、女性の自己実現と学問、非対等な性愛と権力の不平等な配分との密接な関係などを、史料に拠りつつ紹介する。それらを通じて、ジェンダー非対称を「自然化」しない歴史学を考える。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代日本社会に存在するジェンダー非対称な現実を知覚し、指摘することができる。	思考・判断・表現力／主体性
2	近代社会における固定的な性別役割分業観、異性愛の絶対的優位の確立を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	前近代史上、固定的な男女像に収まり切らずに生きた人びとの存在や、自己表現と学問に生きた女性たちの葛藤、非対等な性愛と権力の不平等な配分との密接な関係に気づき、考察を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	各授業回における主体的な取り組み・考察 15%	1／2／3
2	レポート１　25%	2
3	レポート２　60%	3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．　はじめに
２．　現代社会から歴史へ−現代が歴史を構築する
３．　近代的性別役割分業の成立と女子教育
４．　家族と家庭の近代−「らしさ」の時代と恋愛結婚
５．　近世：只野真葛（ただのまくず）と『独考（ひとりかんがえ）』の執筆（１）その生涯
６．　近世：只野真葛（ただのまくず）と『独考（ひとりかんがえ）』の執筆（２）その思想
７．　近世：漢詩人 原采蘋（はらさいひん）の生涯と作品
８．　近世：歌人 野村望東尼（のむらもとに）
９．　近世：男装の罪と女装の文化
10. 近世・島原・天草一揆と女たち
11. 近世・中世：女たちと武力・武芸
12. 中世：院政期と男色−バイセクシュアルな貴族たちと権力
13. 古代：平安期物語に見る「ジェンダーらしくない」子どもたちと周囲の大人
14. 古代：『源氏物語』に見る恋と男女の美
15. 総括：ジェンダー非対称を「自然化」しない歴史学のために

定期試験
レポート１（4回目の授業時に詳細を連絡。後日、期限までに提出） レポート２（15回目の授業時に詳細を連絡。後日、期限までに提出）
試験のフィードバックの方法
manaba掲示板において、教員からの講評を述べる。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）授業で取り上げることがらについて、中学・高校の教科書の該当箇所を読み返すなど、自分にできる範囲で事前に予備知識をつけて授業にのぞむこと（45分程度）。 （復習）授業後は配付レジュメやノートにより復習し、知識を自分のものにすること（45分程度）。また、授業内で紹介する参考文献も積極的に読んで、主体な関心を育ててほしい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし。特定のテキストは使用しない。レジュメを配付する。 ＜参考書等＞ 参考文献は随時、紹介する。 なお、授業理解を助けるため、適宜、毎時間、高校までの教科書などの関係ページを参照しながら、受講して構わない。
オフィスアワー
各回授業終了後にリアクションペーパーの提出・質問を、manabaレポート機能により受け付ける。 質問回答はmanaba掲示板により全体に提示する。 その他、授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
nishio@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・本授業は、「ジェンダー史」とあるように歴史の授業であることを十分認識して、履修登録をすること。 ・各回の授業終了後、manabaのレポート機能を通じてリアクションペーパー・質問を回収する。質問への回答はmanaba掲示板にて配信する。 ・レポート提出もmanabaのレポート機能によって行う。 ・そのため、履修登録後は、manabaのコースニュース、掲示板、レポート通知のリマインダメールの受信設定を必ず〇にしておくこと。

ジェンダー史					単位数	2単位
授業コード	41615	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	西尾　和美					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

現代社会におけるジェンダー研究の進展に比べ、高校までの歴史教科書では女性人名が登場することすら少なく、メディアでは歴史上の男女像が固定的に再生産され続けている。本授業では、自分の生きているそのような現代日本社会を見つめ直すことから出発し、近代社会以降においてこそ、固定的な性別役割分業観と、異性愛の優位と正統化が進むことを指摘する。その上で、前近代社会を江戸から平安へと時代を遡り、固定的な男女像に収まり切らぬ現実の人々の存在とその葛藤、女性の自己実現と学問、非対等な性愛と権力の不平等な配分との密接な関係などを、史料に拠りつつ紹介する。それらを通じて、ジェンダー非対称を「自然化」しない歴史学を考える。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代日本社会に存在するジェンダー非対称な現実を知覚し、指摘することができる。	思考・判断・表現力／主体性
2	近代社会における固定的な性別役割分業観、異性愛の絶対的優位の確立を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	前近代史上、固定的な男女像に収まり切らずに生きた人びとの存在や、自己表現と学問に生きた女性たちの葛藤、非対等な性愛と権力の不平等な配分との密接な関係に気づき、考察を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	各授業回における主体的な取り組み・考察 15%	1／2／3
2	レポート１　25%	2
3	レポート２　60%	3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．　はじめに
２．　現代社会から歴史へ−現代が歴史を構築する
３．　近代的性別役割分業の成立と女子教育
４．　家族と家庭の近代−「らしさ」の時代と恋愛結婚
５．　近世：只野真葛（ただのまくず）と『独考（ひとりかんがえ）』の執筆（１）その生涯
６．　近世：只野真葛（ただのまくず）と『独考（ひとりかんがえ）』の執筆（２）その思想
７．　近世：漢詩人 原采蘋（はらさいひん）の生涯と作品
８．　近世：歌人 野村望東尼（のむらもとに）
９．　近世：男装の罪と女装の文化
10. 近世・島原・天草一揆と女たち
11. 近世・中世：女たちと武力・武芸
12. 中世：院政期と男色−バイセクシュアルな貴族たちと権力
13. 古代：平安期物語に見る「ジェンダーらしくない」子どもたちと周囲の大人
14. 古代：『源氏物語』に見る恋と男女の美
15. 総括：ジェンダー非対称を「自然化」しない歴史学のために

定期試験
レポート１（4回目の授業時に詳細を連絡。後日、期限までに提出） レポート２（15回目の授業時に詳細を連絡。後日、期限までに提出）
試験のフィードバックの方法
manaba掲示板において、教員からの講評を述べる。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）授業で取り上げることがらについて、中学・高校の教科書の該当箇所を読み返すなど、自分にできる範囲で事前に予備知識をつけて授業にのぞむこと（45分程度）。 （復習）授業後は配付レジュメやノートにより復習し、知識を自分のものにすること（45分程度）。また、授業内で紹介する参考文献も積極的に読んで、主体な関心を育ててほしい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし。特定のテキストは使用しない。レジュメを配付する。 ＜参考書等＞ 参考文献は随時、紹介する。 なお、授業理解を助けるため、適宜、毎時間、高校までの教科書などの関係ページを参照しながら、受講して構わない。
オフィスアワー
各回授業終了後にリアクションペーパーの提出・質問を、manabaレポート機能により受け付ける。 質問回答はmanaba掲示板により全体に提示する。 その他、授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
nishio@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・本授業は、「ジェンダー史」とあるように歴史の授業であることを十分認識して、履修登録をすること。 ・各回の授業終了後、manabaのレポート機能を通じてリアクションペーパー・質問を回収する。質問への回答はmanaba掲示板にて配信する。 ・レポート提出もmanabaのレポート機能によって行う。 ・そのため、履修登録後は、manabaのコースニュース、掲示板、レポート通知のリマインダメールの受信設定を必ず〇にしておくこと。

考古学Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	41620	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	紺谷　亮一					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

考古学の方法論についての基礎的知識の習得を図る。土器、石器、遺構、人骨、植物遺存体、動物骨の見方、放射性炭素年代測定法について学ぶ。考古学は基本的にモノの分析を通して、当時の社会復元を目指すことを理解する。そして発掘調査による、具体的なデータ蓄積、資料操作なしに、考古学的進歩が無いことを明らかにする。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	考古学についての基本的な方法論を理解し、説明することができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	考古学データを活用し、その意味について論じることができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート(2回)　50%	1／2
2	ノート提出　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

大塚遺跡（横浜市教育委員会）、小田原城（小田原市教育委員会）等の国内の発掘調査に参加した経験から、日本考古学のあり方を多角的に取り上げ、将来的な考古学研究視座を実証していく。そして、学生に具体的で創造的な思考力の発展を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　講義概要
2　考古資料とは何か
3　考古資料の見方
4　考古学の年代
5　考古学データの扱い方
6　考古学と民族学・民俗学
7　文献資料と考古資料
8　日本考古学の起源
9　魏志倭人伝とは何か
10　魏志倭人伝の内容考察
11　魏志倭人伝の考古学的評価
12　発掘調査とは
13　発掘調査の方法と意義
14　考古学とマスコミ
15　総括

定期試験
レポート2回とノート提出
試験のフィードバックの方法
manaba上で要点を含め解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『魏志倭人伝の考古学』，佐原真著（予定）
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
国内外の考古学のニュース・文献等に関心を持つよう心がけること。

考古学ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	41630	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	紺谷　亮一				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　オリエント考古学についての基礎的知識の習得を図る。農耕の開始、都市の出現、文字の発明、交易網の整備等、人類史の主な出来事が、オリエントの地でおこったことを学ぶ。オリエントでの発掘調査の方法論の独自性を理解する。その一方で、日本考古学との相違点について理解する。そして、流動的な現代中東世界を理解するうえで、オリエント考古学の果たす役割について学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	オリエント考古学についての基本的な方法論を理解し、説明することができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	オリエント考古学のデータを活用し、その意味について論じることができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート(2回)　50%	1／2
2	ノート提出　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

　トルコ共和国キュルテペ遺跡（世界遺産暫定リスト登録）の発掘調査およびその研究成果をもとに、オリエント考古学のあり方を多角的に取り上げ、将来的な考古学研究視座を実証していく。そして、学生に具体的で創造的な思考力の発展を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　講義概要
2　古代オリエントの地理学的概念
3　新石器（農耕）革命
4　都市革命
5　文字の発明
6　交易の時代・青銅器の出現
7　帝国と鉄器の出現
8　オリエントの発掘史1
9　オリエントの発掘史2
10　オリエントの遺跡1（ヒッタイト帝国の首都ハットゥシャ）
11　オリエントの遺跡2（ホメロスの伝説都市トロイ）
12　オリエントの遺跡3（アッシリア王の都ニルムド）
13　トルコにおける考古学調査
14　オリエント考古学に携わった人々（アラビアのロレンス、アガサ･クリスティー等）
15　総括

定期試験
レポート2回とノート提出
試験のフィードバックの方法
manaba上で要点を含め解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『西アジア考古学講義ノート』，西アジア考古学講義ノート編集委員会，西アジア考古学会、2013年
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
国内外の考古学のニュース・文献等に関心を持つよう心がけること。

民俗学Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	41640	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	平松　典晃				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

民俗学は伝統的な慣習・行事などから日本人の生活文化を解明する学問である。各地の具体的な事例を示しながら、その基本的な性格を考察する。民俗学の研究範囲は多岐にわたるが、本講義では年中行事と人生儀礼を中心に取り上げる。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	民俗学の基礎的な知識と研究方法を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	様々な民俗事象・生活事象の民俗学的な意義を理解し、自分の言葉で説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	調査や議論を通じてコミュニケーション能力を身につけ、社会に貢献することができる力を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	期末試験（80%）	1／2／3
2	小レポート（20%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高等学校における教員としての指導経験を生かし、効果的な授業展開に努める。学芸員としての実務経験をもとに民俗調査や研究方法の習得、民俗学に求められる役割や課題の解決にむけて実践的な取り組みを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．民俗学とは何か
２．民俗学の目的と研究方法
３．人の一生(婚姻儀礼)
４．人の一生(産育儀礼・通過儀礼
５．人の一生(葬送儀礼・墓制)
６．年中行事(盆・正月・来訪神)
７．年中行事（節句）
８．生業と儀礼（稲作）
９．生業と儀礼（畑作）
10. 祖霊信仰と他界観
11. 先祖信仰（寺檀関係と同族祭祀）
12. 寺院の行事
13. 神社の行事
14. 家のカミ・ホトケ
15. 筆記試験
16. まとめ、試験のフィードバック

定期試験

期末の定期試験を行う。試験は論述式の筆記試験とする。また小レポートを課す。

試験のフィードバックの方法

小レポートについては提出後に解説を行う。
筆記試験については16週目の授業で解説を行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

まずは，毎回の講義で考えながら注意深くノートをとることを求める。その上で，講義の要点を復習し，とくに興味をもった点は紹介された参考文献を読むなどして，理解を深めていってほしい。予習・復習はそれぞれ１時間程度。疑問点は積極的に質問することを期待する。地域や社寺、身の回りの民俗に関心をもち、機会があれば体験・見学しておくこと。また民俗資料を展示した博物館などを見学しておくことが望ましい。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

とくに指定しない。必要に応じて講義中に参考文献を紹介する。

オフィスアワー

質問は講義後に受け付ける。

連絡先

s3039@m.ndsu.ac.jp

留意事項

民俗学という学問に接したことのない学生がほとんどであろう。高等学校までの地歴・公民科の授業とは異なり、また他の多くの授業と同様に答えが初めから決まっているわけではない。なぜ現在のような民俗が展開されているのか考える力を養ってほしい。

民俗学ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	41650	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	平松　典晃				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

日本の民俗宗教において大きな比重をもつ仏教民俗について論じる。この宗教文化を理解するための理論とともに岡山を中心とする各地の事例を示しながら授業を展開する。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	今日にみられる庶民と仏教の関係がどのように形成されたのか、仏教が民俗化する過程を理解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	日本の歴史的な諸事象や，岡山県をはじめとする各地の身近な民俗文化を理解し、自らのことばで説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	調査や議論を通じてコミュニケーション能力を身につけ、社会に貢献することができる力を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	小レポート：20%	1／2／3
2	期末試験：80%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高等学校における教員としての指導経験を生かし、効果的な授業展開に努める。学芸員としての実務経験をもとに民俗調査や研究方法の習得、民俗学に求められる役割や課題の解決にむけて実践的な取り組みを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．民俗宗教について
２．仏教の世界観
３．仏教の民俗化
４．巡礼の歴史
５．仏教と修験道
６．先祖信仰（同族祭祀とイエ意識）
７．先祖信仰（寺檀関係の成立）
８．先祖信仰（両墓制の発生）
９．岡山の宗派的特徴
10. 岡山の仏教民俗（中世の仏教と庶民）
11. 岡山の仏教民俗（法華信仰）
12. 岡山の仏教民俗（巡礼と信仰）
13. 岡山の仏教民俗（伯耆大山の信仰）
14. 岡山の仏教民俗（寺院の年中行事）
15. 筆記試験
16. まとめ、試験のフィードバック

定期試験
期末の定期試験を行う。試験は論述式の筆記試験とする。また小レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
小レポートについては、提出後に解説を行う。 筆記試験については16週目の授業で解説を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
まずは，毎回の講義で考えながら注意深くノートをとることを求める。その上で，講義の要点を復習し，とくに興味をもった点は紹介された参考文献を読むなどして，理解を深めていってほしい。予習・復習はそれぞれ１時間程度。疑問点は積極的に質問することを期待する。地域や社寺、身の回りの民俗に関心をもち、機会があれば体験・見学しておくこと。また民俗資料を展示した博物館などを見学しておくことが望ましい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
とくに指定しない。必要に応じて参考文献を紹介する。
オフィスアワー
質問等は講義後に受け付ける。
連絡先
s3039@m.ndsu.ac.jp
留意事項
民俗学という学問に接したことのない学生がほとんどであろう。高等学校までの地歴・公民科の授業とは異なり、また他の多くの授業と同様に答えが初めから決まっているわけではない。なぜ現在のような民俗が展開されているのか考える力を養ってほしい。

社会史特講Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	41660	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	西尾　和美					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

「戦国・織豊期の社会と女性」をテーマに、安芸毛利氏を対象に講義を行う。当該期の社会では、婚姻は大きな政治的意味をもち、妻や娘はその要に位置した。また、夫妻関係がジェンダー非対称である一方、妻たちの人間関係は広く多様でもあった。本講義では、毛利氏当主の妻たち、および毛利氏の娘たちに焦点をあて、その生涯や人間関係を考察する。歴史が、単なる政治の変遷や権力の交替なのではなく、人間が時代と社会に規定されつつ生きた現実であることを理解する。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	日本社会の歴史を、婚姻や家族、女性やジェンダーの問題を視野に入れて、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	婚姻や家族、男女の生き方や役割、子どもの養育などが、いつの時代も現代と同じなのではなく、歴史的に変化していることを説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
3	現代日本と異なる社会や文化の中にいる人びとに対して、人間的想像力を及ぼすことができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	課題１（事前学習：第1回目に提示）　20%	3
2	レポート１　40%	1／2／3
3	レポート２　40%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．戦国期社会における婚姻と女性
２．毛利氏の始まりと西遷
３．戦国期毛利氏の家督継承と元就
４．戦国期毛利氏の家督継承と女性たち（１）元就と弘元後室「大方殿」
５．戦国期毛利氏の家督継承と女性たち（２）毛利隆元と尾崎局の婚姻
６．戦国期毛利氏の家督継承と女性たち（３）尾崎局・毛利隆元夫妻とその子育て
７．戦国期毛利氏の家督継承と女性たち（４）子育てにみる尾崎局・毛利隆元の夫妻関係
８．戦国時代の毛利氏の家督継承と女性たち（５）隆元の死と遺された者たちの絆
９．織豊期の家督継承と女性たち（６）尾崎局の晩年と死
10. 輝元の成育儀礼と非血縁者の関わり
11. 織豊政権と毛利氏−輝元期毛利氏の状況
12. 織豊政権と毛利輝元の時代の婚姻政策−姻族の大きな役割（１）羽柴秀勝室
13. 織豊政権と毛利輝元の時代の婚姻政策−姻族の大きな役割（２）豊臣秀秋室
14. 織豊政権と毛利輝元の時代の婚姻政策−姻族の大きな役割（３）興正寺門跡室
15. 総括：「戦国時代」の本質とは何か−その呼称の背後にある価値観を問う

定期試験

課題提出１（事前学習。第1回目に指示する）。
レポート１（課題・期限等は授業時に連絡する）。
レポート２（課題・期限等は授業時に連絡する）。

試験のフィードバックの方法

manaba掲示板にて、教員からの講評を述べる。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）授業で取り上げることがらについて、課題提出ではなくても、事前に調べて、予備知識をもって授業にのぞむこと（１時間程度）。
（復習）授業後は送付レジュメやノートにより復習し、知識を自分のものにすること（１時間程度）。また、授業内で紹介する参考文献も積極的に読んで、主体な関心を育ててほしい。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
なし。レジュメを、各回授業で配付する。

＜参考書等＞
参考文献は随時、授業時にあるいは質問回答の中で紹介する。
なお、授業理解を助けるため、中高の教科書を参照しつつ、関係ページを開きながら、レジュメを熟読してほしい。

オフィスアワー

各回授業終了後にリアクションペーパーの提出・質問を、manabaレポート機能により受け付ける。
回答はmanaba掲示板により全体に提示する。
その他、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

連絡先

nishio@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・各回の授業終了後、manabaのレポート機能を通じてリアクションペーパー、質問を回収する。質問への回答はマナバ掲示板にて配信する。
・レポート提出もmanabaのレポート機能によって行う。
・そのため、履修登録後は、manabaのコースニュース、掲示板、レポート通知のリマインダメールの受信設定を必ず○にしておくこと。

社会史特講ＩＩＩ					単位数	2単位
授業コード	41680	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	紺谷　亮一					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

西アジア（主にトルコ）の風土と文化について認識を深める。この地でビザンツ帝国、オスマン帝国等のキリスト教世界とイスラム世界が融合し合ったことを理解する。また、今日の西アジア世界を単に「イスラムの価値観」によって、判断することの危うさを理解する。また、トルコ共和国を題材に、移民、難民、宗教問題等を考えるうえで、ヨーロッパが西アジアと相互依存の関係にあることを学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	キリスト教世界とイスラム教世界の基本的な価値観を理解し、説明することができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	今日のヨーロッパ世界の繁栄が、西アジア世界の盛衰と深くかかわっていることを、諸データを活用し、その意味について論じることができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート(2回)　100%	1／2
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

トルコ共和国アンカラ大学への留学経験を活かし、今日の西アジアの現状を多角的に取り上げ、将来的な国際関係学的視座を実証していく。そして、学生に具体的で創造的な思考力の発展を促す。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１　西アジアの文化地理的位置づけ
２　西アジアの風土
３　西アジアの衣装-衣装に隠された歴史-
４　西アジアの織物-絨毯とキリム-
５　西アジアの食事1-コーヒー文化史-
６　西アジアの食事2-ウシ、ブタ、ヒツジ、トリ-
７　トルコ語入門1-文法の文化史-
８　トルコ語入門2-日常会話-
９　トルコの音楽-軍楽隊とトルコ行進曲-
10　西アジアの現代政治-ＥＵ、トルコ、アラブ-
11　西アジアの宗教
　-三大宗教（ユダヤ、キリスト、イスラーム）の大地-
12　西アジアと古代日本-シルクロードは幻影か？-
13　西アジアと日本人-西アジアに憧れる日本人-
14　西アジア旅行ガイド-君も旅だとう！-
15　総括

定期試験
レポート2回
試験のフィードバックの方法
manaba上で要点を含め解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『地球の歩き方：イスタンブールとトルコの大地』，ダイヤモンド社
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
西アジアのニュース・文献等に関心を持つよう心がけること。

社会史特講ＩＶ					単位数	2単位
授業コード	41690	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	鈴木　真					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

現代中国の基礎となった大清（1636～1912）の歴史，およびその支配民族である満洲人の社会について講義する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	漢人の社会・文化とは異なる世界をもちながら，現代中国にも影響を強く与えた満洲人の社会，およびかれらの建てた大清帝国の特色について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	広大な領域を有し，多民族によって構成される現代中国が，どのような歴史的経緯によって形成されたのかを説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	小レポート：10%	1／2
2	期末試験：90% （持込み不可の長文論述試験を，対面でおこなう）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．大清と現代中国
2．民族とは何か
3．北アジアにおける部族制社会
4．明末の中国東北地方における満洲人
5．満洲人の社会組織と文化
6．八旗と満洲文字
7．明清交替と「入関」
8．大清による漢人社会の統治（1）―辮髪と科挙
9．大清による漢人社会の統治（2）―南巡と文字の獄
10．モンゴルとチベット仏教
11．大清とチベット仏教
12．紫禁城の内廷
13．紫禁城の外朝
14．東トルキスタンと「新疆」
15．まとめ

定期試験

第16回に期末試験（長文論述形式，持込不可，対面）をおこなう。

試験のフィードバックの方法

解説をおこなう。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回資料プリントを配付するので，講義の前後に熟読して内容を把握し，わからない用語や概念については各自調べておくこと。また関係する書籍を読み，理解を深めておくこと（毎回3時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
参考文献は講義中に適宜紹介する。また毎回資料プリントを配付する。

オフィスアワー

月曜日の4時限（14:45～16:15）

連絡先

suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp

留意事項

講義中，指名しての発言を求めることがある。
成績評価，および出欠管理は厳格におこなう。
期末試験は，長文の論述形式でおこなう（持込不可・対面）。ただし情況によってはレポート課題に変更することもある。

史料講読I				単位数	4単位
授業コード	41700	科目ナンバリング	250B0-2340-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	轟木　広太郎				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

社会史に限らず、広く歴史学は史料に基づいて組み立てられる学問であり、自分なりに新しい歴史像を作り上げるには、史料から出発することが欠かせない。そこで本授業では、様々な時代とトピックの社会史関連史料をとりあげ、そこからどのようなテーマを見出すことが可能か、また史料からどのようにして重要なポイントを拾い上げていくかを実践的に学ぶ。なお、史料は主として原典の英訳版を用いる。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	取り上げる史料の時代的背景を理解するとともに、できるだけ正確に史料を読解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	史料の読解をどのように新たな歴史像に結びつけていくか、その発想と手法に習熟する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	平常点（80%）	1／2
2	小テスト（20%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.　社会史の史料についての導入的解説
2-6.　古代社会史関連の史料読解
7-12.　中世社会史関連の史料読解（小テストを含む）
13-17.　近世社会史関連の史料読解
18-22.　近代社会史関連の史料読解
23-27.　現代社会史関連の史料読解（小テストを含む）
28-30.　受講生による史料紹介

定期試験
小テスト
試験のフィードバックの方法
模範解答を示す。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
配布されたテキストの読解には十分な予習が必要となる。語学辞典や、関連するテーマの概説等を活用し、授業の準備に努めることが求められる（毎回2時間程度）。 歴史学的また語学的に不明な点は授業中に積極的に質問して解決を図る努力が求められる。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
随時資料教材を配付する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
ktodoroki@post.ndsu.ac.jp
留意事項

史料講読ＩＩ					単位数	4単位
授業コード	41730	科目ナンバリング	250B0-2340-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	久野　洋					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

日本史、とくに近世史・近代史の研究を進める上で、古文書（こもんじょ）を読解する能力は不可欠である。古文書を解読する力を高めれば、自分なりに新しい歴史的事実を見出す可能性が拡がるとともに、歴史学の面白さと難しさをさらに実感できるだろう。
この授業では、日本史学の基礎的な研究能力を高めることを目指し、近世～近代の古文書を題材にして、くずし字を解読し、その文書の意味や性格を把握する訓練を行う。あわせて、歴史学と史料の関係についても考える。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	基本的なくずし字で書かれた近世～近代の古文書をほぼ解読することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	近世～近代の史料について、各種の事・辞典や関連する文献・史料を参照しながら、書かれている内容の特徴・背景・性格を正確に把握できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	古文書解読を通じ、基礎的な技量を身につけることで物事を探究する深度は格段に増すことを理解し、説明できる。	主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度（発表・小テスト）：40%	1／2／3
2	中間試験：30%	1／2
3	最終試験：30%	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション

2～5. 史料購読
活字史料を輪読する。
各自が、割り当てられた箇所の語句の意味、人物や事件の概略、歴史的背景などを発表する。

6～8. 史料講読と発表・質疑応答（1）
江戸時代の証文類を輪読する。

9～11. 史料講読と発表・質疑応答（2）
明治時代の公文書を輪読する。

12～14. 史料講読と発表・質疑応答（3）
岡山の地域史料を輪読する。

15. 小括・中間試験
16. 解読用史料の紹介

17～29. 史料講読と発表・質疑応答（4）
岡山の地域史料を輪読する。
各自が、割り当てられた箇所の語句の意味、人物や事件の概略、歴史的背景などを発表する。

30. まとめ・最終試験

※授業の進め方や取り上げる史料については受講生の興味関心・習熟状況などに応じて変更することがある。
※前年度に引き続き、重ねて履修する受講生には、1学期は別にテキストを用意する。

定期試験

学期末に試験を課す。また受講生の習熟状況に応じて、小テストを課すことがある。詳細は授業中に説明する。

試験のフィードバックの方法

授業中に指示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

くずし字の解読力を高めるためには、予習・復習を怠らないことが必須である。予習では、辞書をしっかり引いて、疑問点を把握した上で、授業に出席すること。
復習では、解読できなかった文字について、すべて辞書でチェックし、くずし方のパターンを確認すること（毎回2時間程度）。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
・児玉幸多編『くずし字解読辞典　普及版−付・かなもじの解読−』（東京堂出版、1993年）ISBN 9784490103311
・児玉幸多編『 新装版　漢字くずし方辞典』（東京堂出版、2019年）ISBN 9784490109078

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書＞
児玉幸多編『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版、1993年）ISBN 9784490103335

オフィスアワー

授業中に指示する。

連絡先

hisano@m.ndsu.ac.jp

留意事項

博物館・資料館の展示に行ってみるなど、実際の古文書を実見する機会を持ってほしい。

史料講読ＩＩＩ					単位数	4単位
授業コード	41750	科目ナンバリング	250B0-2340-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	鈴木　真					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

近世中国の知識人が記した，筆記などの漢文史料の講読を主におこなう。毎時間，比較的短い漢文の文章を全員で講読し，その内容について解説する（授業予定一覧の内容は例であり，進み具合によって変更する場合がある）。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	「返り点」や「送りがな」のない漢文史料を解釈し日本語に訳すことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	前近代の中国社会に関する専門用語や概念について具体的に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	予習・小テスト（毎回実施する）：50%	1／2
2	中間テスト・期末試験：50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 講義概要（以下は一例である）
2. 「天罰」
3. 「翠雲」
4. 「幻術」
5. 「神罰」
6. 「功罪」
7. 「小人」
8. 「義侠心」
9. 「李半仙」
10. 「青苗神」
11. 「刀筆」
12. 「生霊」
13. 「烈女」
14. 「深慮」
15. まとめ・試験
16. 「千里客」
17. 「胡求為鬼毬」
18. 「劉刺史奇夢」
19. 「塞外二事」
20. 「羅刹鳥」
21. 「大小緑人」
22. 「雀報恩」
23. 「徐崖客」
24. 「鏡水」
25. 「十八灘頭」
26. 「為児策価」
27. 「花魄」
28. 「天后」
29. 「番僧化鶴」
30. まとめ・試験

定期試験

各学期末に試験をおこなう。

試験のフィードバックの方法

期末試験の解説は，当該回において各学期の「まとめ」とともにおこなう。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

事前予習を出席・受講の前提条件とする。
毎回史料プリントを配付するので，必ず漢和辞典を引いて，単語の意味や漢字の読み方について調べておくこと。
（毎回3時間程度）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
漢和辞典（出版社は問わないが，書籍タイプのもの）
詳細は初回の講義で説明する（高校時代に使用していた漢和辞典があれば，それを持参すること）。
講読用の史料は，プリントを配付する。

オフィスアワー

オフィスアワー 月曜日の4時限（14:45～16:15）

連絡先

suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp

留意事項

成績評価，および出欠・遅刻の管理は厳格におこなう。
予習は必須。毎回授業の始めに，理解度を確認する小テストをおこなう。
また2回目以降の授業には必ず漢和辞典を持参すること（詳細は初回講義で説明する）。

史料講読ＩＶ				単位数	4単位
授業コード	41760	科目ナンバリング	250B0-2340-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	轟木　広太郎				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

社会史に限らず、広く歴史学は史料に基づいて組み立てられる学問であり、自分なりに新しい歴史像を作り上げるには、史料から出発することが欠かせない。そこで本授業では、様々な時代とトピックの社会史関連史料をとりあげ、そこからどのようなテーマを見出すことが可能か、また史料からどのようにして重要なポイントを拾い上げていくかを実践的に学ぶ。なお、史料は主として原典の英訳版を用いる。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	取り上げる史料の時代的背景を理解するとともに、できるだけ正確に史料を読解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	史料の読解をどのように新たな歴史像に結びつけていくか、その発想と手法に習熟する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	平常点（80%）	1／2
2	小テスト（20%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.　社会史の史料についての導入的解説
2-6.　古代社会史関連の史料読解
7-12.　中世社会史関連の史料読解（小テストを含む）
13-17.　近世社会史関連の史料読解
18-22.　近代社会史関連の史料読解
23-27.　現代社会史関連の史料読解（小テストを含む）
28-30.　受講生による史料紹介

定期試験
小テスト
試験のフィードバックの方法
模範解答を示す。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
配布されたテキストの読解には十分な予習が必要となる。語学辞典や、関連するテーマの概説等を活用し、授業の準備に努めることが求められる（毎回2時間程度）。 歴史学的また語学的に不明な点は授業中に積極的に質問して解決を図る努力が求められる。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
随時資料教材を配付する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
ktodoroki@post.ndsu.ac.jp
留意事項

地理学概論				単位数	2単位
授業コード	41930	科目ナンバリング	250B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	森　泰三				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　地理学は地域を対象に研究をする科学であり，系統地理学と地誌学に大別される。前者はさらに自然地理学と人文地理学に分かれる。本授業では身近な諸事象と具体的事例を取り上げ，地図や写真を通して地理学各分野について地理学的視点から事例を選び講義する。高校で地理を履修しなかった学生が多いことを考え，この講義は地理学への入門的な内容とする。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	地域を分析するための地理学な見方や考え方の基本を習得し、授業課題やレポートに表現できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	地形図等の読図をはじめ，各種地図が効果的に活用できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	大学での地理学研究に必要な基本的な知識や中学校・高校での地理の学習指導に必要な基礎力が獲得できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度　　20%	1／2
2	授業課題　　30%	1／2／3
3	レポート　　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高等学校で地理を履修していない学生が大部分であることを鑑み，高等学校での「地理」の指導経験を生かしながら，学問としての大学地理学の授業を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　ガイダンス、学問としての地理学
２　地理学の学び、地理学と社会
３　地理学の歴史、地理学の諸分野、地域区分の概念
４　地理学研究のための参考文献と情報
５　地図と空中写真、衛星画像の利用
６　地形図の活用
７　主題図の利用
８　主題図の作成
９　統計とその利用
１０　ＧＩＳ（地理情報システム）の利用
１１　フィールドワーク　景観写真
１２　プレゼンテーションと卒業論文
１３　地理学関係の学会および学会誌、地理教育
１４　地理学の応用（防災など）、地理学の新しいキーワード
１５　地理学の諸課題とまとめ

定期試験

レポート

試験のフィードバックの方法

授業中に授業課題やレポートについてコメントする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

　あらかじめ授業の内容にかかわるテキストの範囲を予習したり，地図の作業などに取り組んで授業に臨んでいただきたい（予習1時間30分）。また，授業後も学習した内容の整理や地理的諸課題を地域に見出して，その解決方法も考えるように努めて欲しい（復習1時間30分）。

必携書（教科書販売）

『第2版　ジオ・パルＮＥＯ-地理学・地域調査便利帖-』，2017年発行，ISBN: 978-4860993153，野間晴雄他編著，海青社

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
授業時に指示
・帝国書院編集部編『新詳高等地図（地図-310）』（帝国書院）等の地図帳（高校で使用したものでよい）

＜参考書等＞
・授業時に必要に応じて別途資料プリントを配布する。

オフィスアワー

木曜日　３時限

連絡先

tmori@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・中学校社会科・高等学校地理歴史科の教職資格取得に必修となっている。
・「人文地理学」と連動させて授業を展開する。
・地理学概論のみの受講も可能である。内容は重複しないよう配慮する。
・第１回目の対面授業で、授業の日程や方法などガイダンスを行う。

人文地理学				単位数	2単位
授業コード	41940	科目ナンバリング	250B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	森　泰三				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　地理学における現代的課題を題材とし，それらに対応するあらたな地理学からの視点や研究方法を学ぶ。「地理学概論」をやや発展させた内容とし，「地理学概論」「地誌学（Ⅰ・Ⅱ）」との関連を図りながら，人文地理学の具体的な研究像が理解できるよう講義する。ICTを活用した情報収集・分析、デスカッションなどを含む。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人文地理学の主要分野の研究内容についての基礎的知識と研究方法が習得し、授業課題やレポートを作成できる。	知識・技能
2	地理的見方・考え方を授業課題やレポートで表現できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	地域研究と社会人として必要な資料収集及び分析方法の基礎的素養が獲得できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	・授業への取り組み度　　20%	1／2／3
2	・授業課題　　30%	1／2／3
3	・レポート　　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高等学校での「地理」の指導経験を通して獲得した知見を踏まえ，高等学校で「地理」を履修していない学生に対しても容易に理解できるよう，大学での地理学を教授する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　人文地理学の特質と研究原理
2　地形図から読み取る人間生活と環境
3　人口地理学と研究視点
4　都市地理学と研究視点
5　郊外化と大都市圏
6　商業地理学−小売り業の変貌を中心に−
7　サービス業の地理−3次産業の多様性−
8　観光地理学の諸相
9　交通地理学と都市構造
10　工業地理学から見た工業地域の変容
11　国土政策と都市政策
12　エネルギー・資源問題
13　地域調査の方法
14　人文地理学の諸問題、研究の実際
15　人文地理学研究の実際

定期試験

レポート

試験のフィードバックの方法

授業中に授業課題やレポートについてコメントする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

あらかじめ授業の内容にかかわるテキストの範囲を予習したり，地図の作業などに取り組んで授業に臨んでいただきたい（予習１時間30分）。また，授業後も学習した内容や地理的諸課題を地域に見出して，その解決方法も考えるように努めて欲しい（復習1時間30分）。

必携書（教科書販売）

・『現代社会の人文地理学』，2014発行，ISBN978-4-7722-3162-6，稲垣　稜著，古今書院

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
授業時に指示
・帝国書院編集部編『新詳高等地図（地図-310）』（帝国書院）等の地図帳（高校で使用したものでよい）-地理学概論・自然地理学・地誌学Ｉと共通-

＜参考書等＞
・講義中に資料及び課題プリントを配布する。

オフィスアワー

火曜日4時限

連絡先

tmori@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・中学校社会科・高等学校地理歴史科の教職資格取得に必修となっている。
・地理学概論と連動した授業であるが，内容事例の重複は避けている。
・地理学概論を受講していなくても理解できる内容とするので，人文地理学のみの受講も可能である。
・第１回目の授業で、授業の日程や方法などガイダンスを行う。

自然地理学				単位数	2単位
授業コード	41950	科目ナンバリング	250B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	松多　信尚				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

自然地理学の基礎を中心として，地理学的な見方・考え方および基礎的技能を学ぶ。災害を理解することを終着点として、世界の気候・地形を具体的に解説し，その中で日本の気候・地形の特徴を捉える。また，自然災害だけでなく，環境問題とともに変化する自然環境および人々の生活を解説する。可能ならば、日帰りの巡検を企画します。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	自然地理学の基礎となる全地球規模の気候・地形に関する知識および日本の気候・地形の特徴を説明でき、それをもとに考える事ができる。	知識・技能
2	地理的技能を習得し、読図ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	地理的な見方・考え方を習得することで、何気ない見慣れた景色が意味のある景観として説明でき、文化・歴史・生活・社会と自然景観・環境とを結びつけて捉えられることである。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度（出席を前提とし，レポートや受講態度を勘案する）：20%	1／2／3
2	学期末試験（基本的な知識の記述を課し、それをもとに自然環境を考察する能力を判別する）：80%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．地理的な見方・考え方、自然地理学とは何か（イントロダクション）
2．自然災害とその地理学的意味　必要な概念　内的営力と外的営力
3．内的営力の地形　プレートテクトニクス
4．内的営力の地形　火山
5．内的営力の地形　地震
6．大気大循環　と　世界の気候
7. 局所的な要因　と　日本の気候
8．気候変化　と　氷期　間氷期
9-11 巡検
12. 環境と外的営力の気候変化と地形
13. 外的営力の地形　侵食の地形　山地
14. 外的営力の地形　堆積の地形　平野　海岸の地形
15. 地形変化と災害　人々の暮らし

定期試験
学期末試験
試験のフィードバックの方法
郵送にて
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
プリントを配布しますが、白黒で縮小したものになるので、希望者に事前にカラーの図のファイルを配ります。印刷するか、ファイルを見られる状況で授業を受けられるとよいかと思います。毎回２時間程度の予習復習がもとめられる。
必携書（教科書販売）
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 　高等地図帳 ＜参考書等＞ 第二版 はじめての自然地理学　吉田 英嗣 授業時間中に資料および課題プリントを配布する。参考書および参考文献は講義中に随時紹介する。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 オフィスまで来てくれれば受け付ける
連絡先
matta@okayama-u.ac.jp
留意事項
授業時間には色鉛筆（赤・青）を持参すること。

地誌学I				単位数	2単位
授業コード	41960	科目ナンバリング	250B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	森　泰三				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

地誌学は地域地理学とも称され、特定の地域の事象を総合的に理解することを目標としており、系統地理学とともに地理学の両輪をなしている。地誌学の本質と研究方法を明確にした後、日本地誌を中心に各地域とのかかわりについても触れながら具体的事例を通して解説し、地域の課題について考察する。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	日本の諸地域について、地理的な特色の把握して、空間的理解ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	地理的な見方・考え方を通して、中学校社会科・高等学校地理歴史科の指導はもとより、社会人として不可欠な地域理解のための手法を身につけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取組度　２０％	1／2
2	授業課題　３０％	1／2
3	レポート　５０％	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

中学校・高等学校での指導経験を通して獲得した指導技術を活用した指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　ガイダンス　地誌学の見方・考え方
２　自然環境と地図　　日本の「防災」
３　九州の自然環境と人々のくらし、産業
４　中国・四国の自然環境と囚々のくらし／日本の「移動」
５　中国・四国の都市と産業
６　近畿の自然環境と産業
７　近畿の都市と人々のくらし
８　中部の自然環境と人々のくらし、産業
９　関東の自然環境／日本の「モノ」
１０　関東の都市と産業
１１　関東の人々のくらし
１２　東北の自然環境と人々のくらし、産業
１３　北海道の自然環境と人々のくらし、産業
１４　世界の諸地域（１）　旧大陸を中心に
１５　世界の諸地域（２）　新大陸を中心に

定期試験

レポート

試験のフィードバックの方法

授業中に授業課題やレポートについてコメントする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

日本の諸地域に関する課題について、地図と関連させながら取り組んで授業に臨んでもらいたい。（予習１時間30程度）
授業後も日本の各地域の特色や事象の要因などを空間的に理解できるようにまとめる。また、日本各地域のニュースにも関心をもって考えてもらいたい。（復習1時間30分程度）

必携書（教科書販売）

『知るほど面白くなる日本地理』, 2016年, ISBN　978-4534054432, 地理教育研究会, 日本実業出版社

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
・帝国書院編集部『新詳高等地図　地図-310』などの地図帳（高校で使用したものでよい）授業では毎回活用する予定。

・授業中に必要な資料等は配布する。

オフィスアワー

木曜日　３時限

連絡先

tmori@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・中学校社会科・高等学校地理歴史科の教職資格取得に選択必修となっている。
・「自然地理学」「人文地理学」「地誌学Ⅱ」と連動させて授業を展開する。
・「地誌学Ⅰ」のみの受講も可能である。内容は重複しないよう配慮する。
・第１回目の授業で、日程や方法などガイダンスを行う。

文化人類学				単位数	2単位
授業コード	41970	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	上水流　久彦				
時間割備考	9/7, 8, 14, 15				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会は異なる文化の人々とともに生きることが求められている。本授業では、異文化に対してどのように考え、どのように対応すれば良いか、その基本的な姿勢（自文化を基準とした理解の問題点）について学ぶことを目的とする。具体的には文化人類学が、これまで、どのように文化を調べ、どのように理解してきたかを、国内外の事例を通じて紹介する。テーマとしては、セクシャルティ、ジェンダー、婚姻、家族、親族、宗教などを取り上げる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	文化とはどのようなものであるかを説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	日本社会を世界との比較など通じて日本や世界の多様な文化について知見を広め、多様さを説明できる。	知識・技能
3	多様な文化の在り方の意義を知ると同時に、日本の「常識」に対して問題点を述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自文化を基準に他の文化を判断する問題点を理解し、「常識」を批判的に捉えることができる。	思考・判断・表現力／主体性
5	日本社会の在り方の問題点を見出し、あるべき姿について提案ができる。	思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー　20点	1／2／3／4
2	グループ討議感想　　30点	3／4／5
3	期末レポート　50点	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．イントロダクション：授業内容及び単位認定について
2．序章　文化とは何か　　文化について学びます
3.　第１章　フィールドワーク　　文化を調べることについて学びます
4．第４章　セクシャリティ　　セクシャリティから日本の「常識」を検討します
5．第４章　ジェンダー　　ジェンダーから日本の「常識」を検討します
6．グループ討議　日本のジェンダー問題について　　グループ討議から日本の新たな在り方を考えます
7．第３章　宗教　　宗教から多様な世界の在り様を知り、日本の「常識」を検討します
8．第５章　社会関係　　社会関係から多様な世界の在り様を知り、日本の「常識」を検討します
9．第７章　エスニシティ　　エスニシティから多様な世界の在り様を知り、日本の「常識」を検討します
10. 第10章　多文化共生　　多文化共生日本社会の問題を理解します
11. 第９章　トランスナショナリズム　　トランスナショナリズムから国家について検討します
12. 第11章　観光　　観光から他者を理解することについて検討します
13. 第２章　婚姻　　婚姻から多様な世界の在り様を知り、日本の「常識」を検討します
14. 第２章　家族・親族　　家族・親族から多様な世界の在り様を知り、日本の「常識」を検討します
15. おわりに・序章　文化相対主義　異文化を学ぶ作業が持つ意味について学びます

定期試験
授業での知見や発見に基づき日本社会の「常識」を批判的検討するレポート
試験のフィードバックの方法
リアクションペーパーやグループ討議感想などについては適宜リプライを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
配布資料もしくは該当する教科書の章を事前に読んでおくこと（30分） 授業内容を復習し、それに関連した角度から日本の社会の在り方について自分なりの考えをまとめておくこと（30分）
必携書（教科書販売）
『東アジアで学ぶ文化人類学』, 2021年、9784812216125、昭和堂
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 参考文献などは講義のなかで紹介する。
オフィスアワー
質問は随時メール等にて受け付ける。
連絡先
kamizuru@pu-hiroshima.ac.jp
留意事項

哲学基礎					単位数	2単位
授業コード	42000	科目ナンバリング	250B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	出村　和彦					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

　まず哲学の学的立場を確認し、西洋哲学の様々な視点を紹介し、「知恵の探求」という観点から理解を深める。聴講者は主として現代社会学科の学生であること、教職志望の方もいることを考慮して、現代社会との関係で、哲学、倫理学、人間学、日本思想史、宗教学の領域についても広く見渡せるように配慮する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	西洋における哲学的思索とその諸問題を展望することによって，哲学的思索の特徴を正確に理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	哲学的著作の要点を正確に読解する理解の基づいて、自ら「哲学する」ことを試みる主体性を身につけてそれを表現できるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	講義内容を正確に理解しているかを確かめ、またそれに基づく主体的な探求の試みを示す毎回の課題や小テスト：30%	1／2
2	資料を読解し、教科書や講義内容を正確に理解し、哲学基礎的な知識を備えて、自らの主体的な「哲学的探求」を論理的に論述した「中間・期末レポート：70%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．序 哲学の語義と課題 履修ガイダンス
２．　Ⅰ 何から知恵は始まるのか １　驚き
３．　　２ 心に巣くう偶像の撤去
４．　Ⅱ 知識はどのように区別されるのか １　知恵と学問的認識の区分
５．　　２　存在論と形而上学
６．　　３　実践的知恵として倫理学
７．　　４　技術と制作学
８．　Ⅲ 認識の機能とは何か １　経験の明晰化
９．　　２　真理概念の特質
10.　Ⅳ 人間についての問い　１　人間についての認識
11.　　２　社会性の三段階 共同体の三類型
12.　Ⅴ 倫理への問い　１　習俗の相対化と道徳性の問題
13.　　２　意志と自由
14.　　３　愛と幸福
15.　Ⅵ　文化と宗教への問い　まとめ

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
共通する質問については授業中やマナバで回答する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
教科書の指定箇所や毎回の授業で紹介した文献について、興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。特にレポートには講義内容を踏まえた課題に関してより多角的に、発展的な論述を求める。毎回授業を真剣に聴くと共に、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『知恵の探求とは何か-哲学的思索への手引き一』，金子晴勇，知泉書館、ISBN978-4-86285-167-3 『方法序説』，デカルト，岩波書店 ISBN4-00-336131-8
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業やマナバで指示する
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
demura@okayama-u.ac.jp
留意事項
この講義には、過去の哲学思想を学ぶことが現在の自分にとっていかなる意味があるかという問題意識をもって積極的に出席していただきたい。この講義の予備知識は不要であるが、知的好奇心の旺盛な学生の履修を期待する。

行政法				単位数	2単位
授業コード	42010	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	高橋　正徳				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業では，まず，「行政法の基本原理」について理解したのち，「行政作用法」として行政行為を始めとする行政の各種の行為形式および行政上の諸制度について，また，「行政救済法」として行政事件訴訟について，その基本的な内容を習得する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	身近で具体的な事例を素材にして行政法の基本的な仕組みを理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	行政に対する授権と統制の法としての行政法を実社会の中で活用できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	小テスト：30%	1／2／3
2	定期試験：70%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　行政法の基本原理(1)-法治主義
2　行政法の基本原理(2)-行政上の法関係
3　行政立法
4　行政行為(1)-行政行為の概念および効力
5　行政行為(2)-行政行為の瑕疵
6　行政行為(3)-行政行為の撤回
7　行政計画・行政契約・行政指導
8　行政調査･即時強制および行政上の義務履行確保制度
9　行政手続
10　行政救済制度-行政上の不服申立て・行政事件訴訟・国家補償
11　行政事件訴訟の類型
12　取消訴訟の訴訟要件(1)-取消訴訟の対象，原告適格
13　取消訴訟の訴訟要件(2)-訴えの利益，被告適格，出訴期間
14　取消訴訟の審理および判決
15　行政事件訴訟と仮の権利保護

定期試験
16週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法
小テスト（計２回）の各実施後に，正解を配付する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次週に予定されているテーマについて，教科書の該当部分を熟読し，概要を理解しておくこと（約1時間）。 （復習）教科書および配付されたレジュメ，資料を通じて，当該テーマについての理解を深めること（約1時間）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞（教科書販売） 『事例で考える行政法［改訂新版］』， 2017年， ISBN 978-4-7823-0573-7，横山信二・廣瀬 肇編著， 嵯峨野書院
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 小型の六法（もしあれば，どれでもよい） 授業の中で，適宜，レジュメを配付する。
オフィスアワー
質問は，授業後に直接，または随時メールで受け付ける。
連絡先
sho-tok◎cc.okayama-u.ac.jp （◎を＠に変換して送信してください）
留意事項

社会法					単位数	2単位
授業コード	42030	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	浅沼　友恵					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

日本の社会政策諸制度を理解するとともに、問題点についても考察する。また、雇用問題を検討し働く女性の法について理解を深めたうえで、学生には就職するにあたり必要な働き方のルールの知識から、自らが関わる社会保障制度までの理解をとおして、学生自身のライフプラン、ライフワークバランスの考察ができるようにしたい。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	国家公務員（Ⅱ種）、地方公務員上級試験の受験を希望する場合の基礎的な知識や基本的な思考方法を理解し公務員試験の土台にできる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	一生のうちで関わる社会政策への理解と就業に関する基本的なルールを理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	習得した就業に関するルールなどの知識を就職活動に役立てることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	社会保障制度の専門的知識を将来の仕事や自分自身の生活に役立てることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求めます。授業の内容等の質疑に対しては次の授業にて対応します。期末試験を実施します。	1／2／3／4
2	①全体の3分の2以上の出席ならびにその授業の課題レポートの提出（毎回manaba folioからの提出）50%	1／2／3／4
3	②期末テスト（筆記試験）50%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

①金融機関に勤務経験あり。
②金融機関では公的な社会保障制度の理解が大前提であり、それを補完する金融商品との関係の理解が業務遂行の基本であるとともに、就職するにあたり、雇用のルール（男女雇用機会均等法や育児休業、就業時間制や残業法制、リストラの要件等）を知っておくことも職業生活には必要である。また、公務員試験の「社会政策」科目に対応する知識はどの分野の就職活動にとっても有益である。
③　学生には就職するにあたり必要な働き方のルールから、自らが関わる社会保障制度までの理解をとおして、学生自身のライフプラン、ライフワークバランスの考察を促す。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

Ⅰ.社会政策概論
　第1回　〔1〕社会政策の歴史
　第2回　〔2〕世界の社会政策史
Ⅱ. 日本の社会政策
〔1〕所得保障政策
　第3回　①公的年金制度
　第4回　②障害年金・遺族年金制度
　第5回　③企業年金制度
　第6回　④生活保護制度
〔2〕医療保障政策
　第7回　①健康保険制度
　第8回　②高齢者の健康保険制度
〔3〕雇用・失業政策
　第9 回　①現代雇用情勢から見る女性の雇用
　第10回　②男女雇用機会均等法について
　第11回　③障害者雇用
　第12回　④雇用保険
〔4〕労働基準政策
　第13回　①内定と労働契約、働き方の多様化と賃金問題
　第14回　②育児介護休業法と休業中の所得保障について
　第15回　③労災保険

定期試験
第16回目に定期試験(筆記式)を実施する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後、解答解説します。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習はテキストの次回のテーマの部分に目を通すことを希望します（30分程度）。授業中はノートの取り方に工夫をしてください。特に説明なども書き加え復習しやすいノートの作成を希望します。試験前にまとめて復習しようとすると多岐にわたる内容を網羅することが難しいため、その都度配布されたプリントやノートの内容を見直し定着をはかるように努めてください。(復習時間1時間程度) また、日常生活の中でニュースや新聞、ネットなど関連する記事に注目してください。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『社会保障法　第8版 』, 加藤　智章, 有斐閣 ISBN-13: 978-4641222113 ＜参考書＞すでに六法を持っている場合は購入不要。 『デイリー六法』, 三省堂, 2023年版 ISBN-13: 978-4385159836
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし。
オフィスアワー
授業前後に質問を受けつけます。
連絡先
Email:s8001@m.ndsu.ac.jp
留意事項
六法は『デイリー六法』2023年版を使用するが、他の授業等ですでに持っていれば再購入する必要はありません。 課題やレポート提出のために、manaba folio/Google classroom/Wordが使えるようにしておきましょう。

経済学基礎					単位数	2単位
授業コード	42050	科目ナンバリング	250B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	横尾　昌紀					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

　複雑な経済および社会をその参加者（個人，企業，政府など）間の「戦略的状況」としてとらえることで，経済社会に対する新たな視座を得る．具体的には，ゲーム理論と呼ばれる，社会科学をはじめとする幅広い分野に応用される学問領域の基礎とその応用を学ぶ．

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	基礎的なゲーム理論の考え方に基づいて現実世界の問題を深く理解できるようになること．	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	学期中に実施する3回の提出課題と期末試験で評価する．	1
2	提出課題（30%） 期末試験（70%）	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 戦略的思考とは？
2. 囚人のジレンマと戦略型表現のゲームにおけるナッシュ均衡
3. 囚人のジレンマと同じ構造をもつ経済・社会的ジレンマ
4. 規格競争とデファクトスタンダード
5. ジェンダー（不）平等のゲーム理論的視点
6. じゃんけん必勝法？混合戦略とナッシュ均衡
7. 参入阻止ゲーム
8. 後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡
9. 参入阻止ゲームの拡張：背水の陣の合理性
10. ゲーム理論と契約
11. プリンシパル・エージェント問題
12. 不確実性の経済
13. シグナリング・ゲームと大学選択（その１）
14. シグナリング・ゲームと大学選択（その２）
15. 総復習

定期試験
16. 定期試験 および課題（宿題）を３回.
試験のフィードバックの方法
期末試験終了の翌週に解説を行う.
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業は教科書の内容に基づいて行う．板書を用いてできるだけわかりやすく講義を行う．教科書の内容について，予習と復習を欠かさないことが求められる．予習・復習にはそれぞれ1時間程度必要だと予想される.
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ ゲーム理論・入門（新版），岡田章著，有斐閣
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ ゲーム理論・入門（新版），岡田章著，有斐閣
オフィスアワー
非常勤講師であるため，基本的にメールを通じて質問に答える．面談が必要があれば，メールでアポイントメントを取ること.
連絡先
yokoo@e.okayama-u.ac.jp
留意事項
定期試験は持ち込みを一切不可とする.

社会倫理学					単位数	2単位
授業コード	42055	科目ナンバリング	250B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	崎川　修					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

現代社会における「いのち」についての様々な問題を、倫理学的な視点から検討する。またカトリック教会における生命倫理についての考え方にも触れる。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代における生命倫理問題についての基本知識を備え、その問題点を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	倫理学的な問題意識から、生と死の問題を考察することができるようになる。	思考・判断・表現力／主体性
3	「いのち」のあり方について、自分自身の生の問題と結びつけて問うことができるようになる。	主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度、リアクションペーパー：40%	2／3
2	期末レポート：60%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 導入:「いのち」の現在形
2. 死生観とその系譜①古典的死生観
3. 死生観とその系譜②近代的死生観
4. 生命倫理学の誕生
5. 「誕生」をめぐる倫理
6. バース・コントロールの問題
7. 人工生殖技術① 人工授精と体外受精
8. 人工生殖技術②代理母・代理出産
9. 高度人体改造医療と人間
10. 「死」をめぐる倫理問題
11. 安楽死と尊厳死①安楽死とは何か
12. 安楽死と尊厳死②治療中止の倫理問題
13. 終生期ケアの意義
14. カトリック教会と生命倫理
15. まとめ

定期試験
期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）教科書の該当部分を読んでおく。（30分） （復習）授業内容に関連するニュースや文献を調べ、問題の理解を深める。（30分）
必携書（教科書販売）
『いのちの法と倫理』［新版］葛生栄二郎・河見誠・伊佐智子,法律文化社,2023年,ISBN978-4-589-04251-4
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 『いのちへのまなざし【増補新版】』, 日本カトリック司教団著, カトリック中央協議会, 2017年 『終の選択』,田中美穂・児玉聡,勁草書房,2017年 その他参考書は授業内で随時紹介する。
オフィスアワー
授業内にて指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。
連絡先
sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、「不可」となる場合がある。 ・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、「不可」となるので注意すること。 ・教科書は2023年に改訂された新版を用いる。旧版は内容が古くなっているため、教科書販売にて新版を購入すること。

社会倫理学Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	42060	科目ナンバリング	250B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	崎川　修					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

現代社会における「いのち」についての様々な問題を、倫理学的な視点から検討する。またカトリック教会における生命倫理についての考え方にも触れる。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代における生命倫理問題についての基本知識を備え、その問題点を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	倫理学的な問題意識から、生と死の問題を考察することができるようになる。	思考・判断・表現力／主体性
3	「いのち」のあり方について、自分自身の生の問題と結びつけて問うことができるようになる。	主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度、リアクションペーパー：40%	2／3
2	期末レポート：60%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 導入:「いのち」の現在形
2. 死生観とその系譜①古典的死生観
3. 死生観とその系譜②近代的死生観
4. 生命倫理学の誕生
5. 「誕生」をめぐる倫理
6. バース・コントロールの問題
7. 人工生殖技術① 人工授精と体外受精
8. 人工生殖技術②代理母・代理出産
9. 高度人体改造医療と人間
10. 「死」をめぐる倫理問題
11. 安楽死と尊厳死①安楽死とは何か
12. 安楽死と尊厳死②治療中止の倫理問題
13. 終生期ケアの意義
14. カトリック教会と生命倫理
15. まとめ

定期試験
期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）教科書の該当部分を読んでおく。（30分） （復習）授業内容に関連するニュースや文献を調べ、問題の理解を深める。（30分）
必携書（教科書販売）
『いのちの法と倫理』［新版］葛生栄二郎・河見誠・伊佐智子,法律文化社,2023年,ISBN978-4-589-04251-4
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 『いのちへのまなざし【増補新版】』, 日本カトリック司教団著, カトリック中央協議会, 2017年 『終の選択』,田中美穂・児玉聡,勁草書房,2017年 その他参考書は授業内で随時紹介する。
オフィスアワー
授業内にて指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。
連絡先
sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、「不可」となる場合がある。 ・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、「不可」となるので注意すること。 ・教科書は2023年に改訂された新版を用いる。旧版は内容が古くなっているため、教科書販売にて新版を購入すること。

社会教育学				単位数	2単位
授業コード	42100	科目ナンバリング	250B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	西井　麻美				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

社会に目を向けて，そこにある教育課題・学習課題を探りながら，社会教育として取り組まれてきた　ことについて把握するとともに，現代的な社会教育の課題を追求する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会教育についての基本的な考え方，基本となっている法規や規定などについて理解するとともに，今日の社会教育の課題を把握する。	知識・技能／思考・判断・表現力
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業参加態度（発表を含む）50%	1
2	課題レポート50%	1
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．オリエンテーション
２．日本社会と教育（１）近代
３．日本社会と教育（２）第二次世界大戦後
４．日本社会と教育（３）現代
５．社会教育の法規・規定（１）教育基本法
６．社会教育の法規・規定（２）社会教育法等
７．社会教育の法規・規定（３）審議会答申等
８．現代における社会教育の動向
９．社会教育の課題
10．社会教育の活動（１）
11．社会教育の活動（２）
12．これからの社会教育
13．地域の社会教育（１）（発表を含む）
14．地域の社会教育（２）（発表を含む）
15．まとめ

定期試験
課題レポート
試験のフィードバックの方法
留意事項を説明する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
事前に各回の授業内容に関連する資料に当たる。（1時間） 授業後、学習内容についてさらに図書などにあたり、調べたことをポートフォリオにまとめる。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー
授業終了後あるいは指導時間相談
連絡先
マナバに連絡用・質問用スレッドをたてる （スレッドがたつまで　mnishii@m.ndsu.ac.jp スレッドが立った後は、このアドレスへの連絡は避けること マナバのスレッドと競合してしまい、大変煩雑になるため）
留意事項
本授業は、社会教育主事課程の科目として、シラバスを文部科学省に提出しているため、提出している内容で作成している。

社会・地歴科教育法Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	42130	科目ナンバリング	250B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	森　泰三				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

中学校社会科・高等学校地理歴史科教育の歴史を学び，平成29年3月改訂の中学校及び同30年3月改訂の高等学校の学習指導要領に基づき，中学校社会科の地理的分野・歴史的分野及び高等学校地理歴史編の目標，内容，指導法等について探究する。さらに，これからの社会科・地理歴史科教育の在り方についても考察する。なお，ICTを利用した教材作成演習も行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	明確な教育理論と実践力を併せ持った教育者を目指し，先行実践事例に学びながら，社会・地理歴史科教員としての基礎的指導力と方法を習得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	学習指導案を作成し，模擬授業の実践ができるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	しっかりとした教育理念と指導技術を持ち，現代的な教育課題に対応でき，ICT を活用した教材作成ができるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度　　（20%）	1／2／3
2	授業課題・発表　　（40%）	1／2
3	レポート　　（40%）	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

中学校・高等学校での指導経験を通して獲得した指導技術を活用した指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　社会科・地理歴史科教育の歴史と課題
2　中学校地理的分野の目標と内容構成
3　中学校地理的分野の指導計画と授業
4　高等学校地理科目の目標と内容構成
5　中学校地理的分野・高等学校地理の指導技術（ICTを活用した教材作成）
6　中学校歴史的分野の目標と内容構成
7　中学校歴史的分野の指導計画と授業
8　高等学校歴史科目の目標と内容構成
9　現行学習指導要領と改訂学習指導要領との比較
10　学習指導案の作成
11　模擬授業の実施（地理的分野・導入）
12　模擬授業（地理的分野）の振り返り
13　模擬授業の実施（歴史的分野・導入）
14　模擬授業（歴史的分野）の振り返り
15　学習指導と評価

定期試験

学習指導案作成、教材作成などのレポート

試験のフィードバックの方法

授業中に授業課題やレポートについてコメントする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

学習指導要領に基づき，中学校社会科の目標や地理的分野，歴史的分野の目標及び内容について理解する必要がある。そのため，予習・復習を通して学習指導要領解説を熟読し，学習指導案の作成と授業につながる基本的な知識を身につけていただきたい（各回に関連する学習指導要領解説の熟読と整理３時間程度）。次期学習指導要領の変更方向についても注意を払いたい。
予習・復習で3時間

必携書（教科書販売）

『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』平成30年3月，ISBN: 978-4491034713，文部科学省，東洋館出版社
『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編』，平成31年4月，ISBN: 978-4491036410，文部科学省，東洋館出版社
『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）公民編』，平成30年7月，ISBN:978-4487286331，文部科学省，東京書籍
-社会・公民科教育法Ｉと共通-

中学校社会科教科書『社会科　中学生の地理　世界の姿と日本の風土』加賀美雅弘ほか22名，帝国書院
中学校社会科教科書『新しい社会　歴史』坂上康俊，矢ケ崎典隆，谷口将紀ほか108名，東京書籍

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考図書等＞
・『中学校学習指導要領（平成29年告示）』，文部科学省
・『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』、文部科学省
・『GISで楽しい地理授業』，森泰三，古今書院
・『フリーGISソフトMANDARA10入門』，谷謙二、古今書院

オフィスアワー

木曜日　３時限

連絡先

tmori@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・教職免中学校（社会），高等学校（地理歴史）における「教職に関する科目」の必修科目である。
・教職免中学校（社会）の取得には「社会・公民科教育法Ｉ」（第２期開講），同高等学校(地理歴史)の取得には「社会・地歴科教育法Ⅱ」（２年次第２期開講）の履修が必要である。

社会・地歴科教育法ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	42140	科目ナンバリング	250B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	森　泰三				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

社会・地歴科教育法Ｉで習得したことを継承して，平成29年3月告示の中学校及び同30年3月告示の高等学校の学習指導要領を基に，中学校社会科地理的分野・歴史的分野及び高等学校地理歴史科の指導法等について発展的な探究を行う。さらに，ICTの活用や主体的，対話的で深い学びに繋がる社会科・地理歴史科教育の在り方についても考察する。なお，コンピュータを利用した教材作成演習も行う。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	明確な教育理論と実践力を併せ持った教育者を目指し，先行実践事例に学びながら，社会・地理歴史科教員としての基礎的指導力と方法を習得し、表現できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	学習指導案を作成し，模擬授業の実践ができるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	しっかりとした教育理念と指導技術を持ち，様々な教育課題に対応でき，ICTを活用した発展的な教材作成ができるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・授業への取り組み度　　（20%）	1／2／3
2	・授業課題・発表　　（40%）	1／2
3	・レポート　　（40%）	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

中学校、高等学校での指導経験を通して獲得した指導技術を活用した指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　社会科・地理歴史科教育の教科論
2　中学校社会科と地理歴史科との内容構成の理論
3　高等学校「地理総合」「地理探究」の内容構成
4　地理の指導計画と授業
5　高等学校「歴史総合」と「世界史探究」の内容構成
6　世界史の指導計画と授業
7　高等学校「歴史総合」と「日本史探究」の内容構成
8　日本史の指導計画と授業
9　社会科地理的分野・歴史的分野及び地理・世界史・日本史教育の諸問題と論争点
10　社会科・地理歴史科教育の方法と評価論
11　社会科・地理歴史科教育におけるアクティブ・ラーニングの在り方
12　情報教育機器を活用した授業方法
13　社会科・地理歴史科の授業計画と授業と振り返り（地理的分野・地理）
14　社会科・地理歴史科の授業計画と授業と振り返り（歴史的分野・世界史）
15　社会科・地理歴史科の授業計画と授業と振り返り（歴史的分野・日本史）

定期試験

授業全体に関するレポートの提出。

試験のフィードバックの方法

授業の中で、レポートの評価方法について説明する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

　学習指導要領に基づき，高等学校地理歴史科の目標や世界史，日本史，地理の科目目標及び内容について理解する必要がある。そのため，予習・復習を通して学習指導要領解説を熟読し，学習指導案の作成と授業につながる基本的な知識を身につけていただきたい（各回に関連する学習指導要領解説の熟読と整理　3時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』平成30年3月，ISBN: 978-449103713，文部科学省，東洋館出版社
『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編』，平成31年4月，ISBN: 978-4491036410，文部科学省，東洋館出版社
-社会・公民科教育法Ｉと共通-
中学校社会科教科書『社会科　中学生の地理　世界の姿と日本の風土』加賀美雅弘ほか22名，帝国書院
中学校社会科教科書『新しい社会　歴史』坂上康俊，矢ケ崎典隆，谷口将紀ほか108名，東京書籍
上記は社会・地歴科教育法Ｉで使用したもの

＜参考書等＞
　授業時に指示
・『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』，文部科学省
・『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）』，文部科学省
・高等学校地歴科を構成する科目の教科書

オフィスアワー

火曜日４時限

連絡先

tmori@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・教職免高等学校（地理歴史）「教職に関する科目」の必修科目である。
・教職免高等学校（地理歴史）の取得には「社会・地歴科教育法Ｉ」（２年次第１期開講）の履修が必要である。

社会・公民科教育法Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	42150	科目ナンバリング	250B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	國吉　久美子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

　中学校社会科・高等学校公民科教育の歴史や理念を学び、公民的分野及び公民科の目標、内容、指導法等について考察する。さらに、実践研究や具体的な実践例を参考にしながら、講義や演習を通して、公民的分野を中心とした授業づくりの基本を学ぶ。また、これからの社会科・公民科教育の在り方についても考察する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会・公民科教員として必要な専門的知識や教育方法の基礎を学び、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的指導力と資質を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・課題レポート・小テスト・発表：３０％	1
2	・学習指導案の作成・模擬授業：３０％	1
3	・定期試験：４０％	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

中学校の社会科担当教員及び小・中学校の管理職としての３８年間の実践経験から、小学校・中学校・高等学校の児童生徒の実態と社会科公民科教育の実際を取り上げ、その課題に対して、理論を基にした実践的な解決方法を主体的に考えられるようにしていく。また、学習指導案の作成や模擬授業の実施を通して、学生の実践的指導力の向上を目指す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　社会科公民科教育の歴史と理念
2　学習指導要領の改訂と社会科公民科
3　公民的分野及び公民科の目標と内容
4　公民的分野及び公民科の全体構造、指導上の留意点、発展的な内容
5　中高校生の現状と授業づくりの基盤
6　学習指導案の作成方法
7　教材研究の活用方法
8　情報機器及び教材の効果的な活用法
9　指導計画と学習評価
10　社会科及び公民科の実践研究の動向
11　公民的分野の授業の実際
12　公民的分野の指導案の作成
13　模擬授業
14　模擬授業の振り返りと指導案の改善
15　社会科公民科教育の今日的課題

定期試験
16週目に定期試験を行う。
試験のフィードバックの方法
定期試験終了後に解説を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業で指示された課題を完成させてから、次の授業に臨むこと。（約40分） 次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、内容をまとめておくこと。（約30分） 社会事象について自分なりの意見が持てるようになることを目指して、新聞を読んだり、関係する本を読むこと。（約20分）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 中学校社会科教科書(公民的分野)「新しい社会　公民」、2021年、ＩＳＢＮ978-4-487-12333-9、矢ケ崎典隆、坂上康俊、谷口将紀他、東京書籍
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』平成29年7月（個人での購入は不要です） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民編』平成30年7月（個人での購入は不要です） 文部科学省『中学校学習指導要領』平成29年3月 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成30年3月
オフィスアワー
毎週の授業（月曜日2時限）前後、またはメールによる質問を受ける。
連絡先
S3027@m.ndsu.ac.jp
留意事項
○教職免中学校（社会）、高等学校（公民）「教職に関する科目」の必修科目である。 ○教職免中学校（社会）の取得には「社会・地歴科教育法Ⅰ」（第１期開講）、同高等学校（公民）の取得には「社会・公民科教育法Ⅱ」（第１期開講）の履修が必要である。

社会・公民科教育法ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	42160	科目ナンバリング	250B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	三浦　隆志				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

社会・公民科教育法Ｉで学習したことを継続して，平成29年3月告示の中学校及び同30年3月改訂の高等学校の学習指導要領を基に，中学校社会科の公民的分野及び高等学校公民科各科目の目標，内容，指導法等について学習します。特に、教科指導において探究学習をどのように設定し、実践、評価する手法を学習します。さらに，学習指導要領で示された教科目の基盤となる資質・能力として、生徒の言語活用・情報活用・課題解決能力の育成を考えて、ＩＣＴの利活用、単元デザインシートの作成、学習指導案の作成も学習します。主体的，対話的で深い学びを実現することのできる社会科・公民科の教師の育成を目指します。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	平成29年3月告示の中学校新学習指導要領社会科、平成30年3月告示の高等学校新学習指導要領公民科の目標と内容を理解することができる。	知識・技能
2	平成29年3月告示の中学校新学習指導要領社会科、平成30年3月告示の高等学校新学習指導要領公民科の内容を踏まえて、年間指導計画や単元指導計画を作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	年間指導計画や単元指導計画を踏まえて、実際の授業を構想し、実践することができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	学習指導要領に示された教科の発展的な学習内容として探究学習について、単元を構想・計画することができる。	思考・判断・表現力／主体性
5	カリキュラム作成や模擬授業等の経験を通じて、学校で教壇に立つ上でのあり方や課題等を理解して整理し、まとめることができる。	主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度（振り返りシートなど）　25%	1／2／3
2	課題の成果物・レポート等　30%	2／3／4
3	発表　20%	2／3
4	定期試験(ミニテストを含む)　25%	1／4
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

これまで長く中・高等学校の社会科・地歴公民科教師として実践を通じて獲得した指導方法や高等学校の管理職としての実務経験、さらに、現在、教育工学の手法による教材開発の研究に取り組んでいます。この授業では、実際に学生が授業デザインをするうえで具体的なイメージを持つことができ、学習指導案の作成や模擬授業の実施を通じて実践的指導力の向上が図られるよう支援する。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．中学校社会科と公民科教育の目標と内容構成論と「現代社会」から「公共」への変更のポイント
２．「学習指導要領」の「公共」について理解する。
３．「学習指導要領」の「倫理」について理解する。
４．「学習指導要領」の「政治・経済」について理解する。
５．「学習指導要領」における「評価」とその運用方法について理解する。
６．社会科公民的分野及び公民科教育におけるＩＣＴ機器の利活用の方法を理解する。
７．実際の「公共」の授業について検討する。
８．実際の「倫理」の授業について検討する。
９．実際の「政治・経済」の授業について検討する。
１０．社会科公民的分野及び公民科教育における探究授業について理解する。
１１．年間指導計画と単元デザインシート使って授業を構想する①
１２．年間指導計画と単元デザインシート使って授業を構想する②
１３．模擬授業の実施と相互評価①
１４．模擬授業の実施と相互評価②
１５．今後、公民科指導をどのように進めていけばよいか（まとめ）

定期試験

中間試験（ミニテスト）：５時間目と９時間目の授業のなかで、学習状況を確認するためにミニテストを実施します。
期末テスト：１６時間目にテストをする予定である。（新型コロナウイルス感染症の状況によってはレポートに代替することもある。）

試験のフィードバックの方法

期末試験の終了後、模範解答を掲示予定である。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（全体）
学習指導要領にもとづき、高等学校公民科の目標や公共、倫理、政治・経済の各科目の目標及び内容について理解する必要があります。それ故、予習や復習では、学習指導要領や学習指導要領解説を熟読して、学習指導案の作成と授業に繋がる基本的な知識を身につけることが重要です。予習（学習指導要領の内容や模擬授業の準備等）や復習（振り返り）に６０分ほど必要と考えている。
（予習）
・授業の前日までに、授業で使用するハンドアウトを準備しますから、全体の流れや疑問点を確認して講義ノートにメモしたうえで出席してください。
（復習）
毎回の授業で、振り返りシート（電子ファイル形式）に記入して、自らの学んだことについて記述し、提出します。授業後の復習のなかで、授業で理解できなかった点、不明な点については、講義ノートにまとめておいてください。随時、回答する機会を作ります。（６０分）
なお、振り返りシートは各自、PC等で保管してください。ミニテストや期末試験、レポートを作成する際に、重要な手助けになります。

必携書（教科書販売）

教科書販売（３冊）
書籍名：中学校社会科教科書『社会科　中学生の公民　よりよい社会を目指して』
発行社：帝国書院
書籍名：高等学校公民教科書『高等学校　公共』
発行社：帝国書院
書籍名：探究する学びをデザインする！情報活用型プロジェクト学習ガイドブック
発行年：2020年8月6日
ISBN-10 : 4183143144
著者：稲垣忠
出版社：明治図書出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
授業時に指示
・『中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）』
・『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』，文部科学省，東洋館出版社
・『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示　文部科学省）』
・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）公民編』（平成31年発行予定、文部科学省）

＜参考書＞
・書籍名：『教育の方法と技術 Ver.2: IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び 探究する学びをデザインする！』-10 : 4183143144
著者：稲垣忠

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

連絡先

s5109@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・教職免高等学校（公民）「教職に関する科目」の必修科目である
・教職免高等学校（公民）の取得には、「社会・公民教育法Ｉ」の履修が必要である。
・授業ではPCを使用します。

現代社会学演習［a］				単位数	4単位
授業コード	44020	科目ナンバリング	250B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	山下　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し，必要な専門的知識および技法を修得する。
本演習では，社会学的分析のスキルを用いて，卒業論文に取り組むための基礎力を身につける。
自分の研究に必要な文献・調査資料の講読，資料・データの収集をし，毎回順番に各自の研究成果について報告してもらう。
報告内容をもとに全員で討論を行うことによって，自らの研究に活かす機会とする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会学の方法論や分析視点を援用した研究方法を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	先行研究，必読文献を読みこなし，説明することができる。	思考・判断・表現力
3	必要なデータ，資料を収集することができる。	知識・技能／主体性
4	首尾一貫した論理的な文章を書くことができる。	思考・判断・表現力
5	自分の研究について、的確なプレゼンテーションをすることができる。	思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	上記に掲げた到達目標の達成度をはかるため，複数回の発表と課題の提出を求める。	1／2／3／4／5
2	発表および討論への取り組み　３０％	1／2／5
3	中間報告　２０％	1／3／5
4	課題・レポート　２５％	2／3／4
5	最終報告　２５％	1／2／3／5

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．オリエンテーション　演習の進め方について
２．研究テーマについての報告
３．資料・文献の探し方について
４．文献リストの作成・報告
５．資料の扱い方について
６．文献・資料の輪読①　社会の発見
７．文献・資料の輪読②　社会的事実
８．文献・資料の輪読③　理論研究
９．文献・資料の輪読④　実証研究
10．文献・資料の輪読⑤　日常生活世界
11．文献・資料の輪読⑥　相互行為儀礼
12．文献・資料の輪読⑦　地位と役割
13．文献・資料の輪読⑧　近代家族とジェンダー
14．文献・資料の輪読⑨　家父長制とフェミニズム
15．中間発表会①
16．研究発表と討論①　　テーマの修正
17．研究発表と討論②　　先行研究の検討
18．研究発表と討論③　　資料の収集と提示
19．研究発表と討論④　　データの解釈
20．研究発表と討論⑤　　調査方法の提示
21．中間発表会②
22．研究発表と討論⑥　　テーマの再修正
23．研究発表と討論⑦　　文献の収集と提示
24．研究発表と討論⑧　　資料・データの収集と提示
25．研究発表と討論⑨　　調査方法の確認
26．研究発表と討論⑩　　テーマと調査方法の確定
27．最終報告と討論①　　進捗状況の確認
28．最終報告と討論②　　課題の析出
29．最終報告と討論③　　卒業論文の方向性の確認
30．卒業論文の執筆に向けて

※３年生対象

定期試験
複数回のレポート（各自の研究課題に応じて設定する）の提出，複数回の発表を求める。
試験のフィードバックの方法
レポート等について，コメントを付して返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業で発表を課すが，その日の内容に関して参考にすべき資料や文献等をそのつど紹介する。次回の発表までに必ず目を通し，理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）。 演習後は，報告・討論から得られた知見やアドバイスを参考に，研究を進めていく上で必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『大学生の研究』（1年次購入済み） ＜参考書等＞ 必要な文献や資料については随時指示する.
オフィスアワー
オフィスアワー　授業中に指示する。 随時、電子メールで質問を受け付ける。
連絡先
miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

現代社会学演習［c］				単位数	4単位
授業コード	44035	科目ナンバリング	250B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	二階堂　裕子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	３実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。
本演習では、地域社会学的な調査・研究を行う。卒論作成のための土台作りを目的として、第1期では、地域社会学に関連する文献の輪読を通して、地域社会の現状と課題に関する議論の動向を把握する。第2期では、フィールドワークにゼミ生全員で取り組む。事前学習、現地調査、ゼミにおける成果報告を経て、最終的に各自が卒論テーマを設定することをめざす。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	地域社会学的な先行研究の検討を通じて、そこから得られた知見を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	フィールドワークの実施によって、必要な資料やデータを収集することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	分析・考察の結果を、論理的に表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	社会的・学術的意義のある卒論研究のテーマを設定することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	研究報告と議論への参加状況：20%	1／3／4
2	調査への参加状況と共同研究に対する貢献度：20%	2／3／4
3	課題レポート：30%	1／3／4
4	調査レポート：30%	1／2／3／4
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. ガイダンス
2～15. 先行研究の輪読と考察
16～17. フィールドワークに向けた問題の設定
18～19. フィールドワークに向けた対象の選定
20～21. フィールドワークの対象に関する事前学習
22. フィールドワークの対象への協力依頼
23. フィールドワーク実施のためのガイダンス
24～25. フィールドワークの実施
26～27. 収集した資料やデータの整理と分析
28～29. 分析結果の報告
30. 演習の総括および卒論研究のための準備

定期試験
以下のレポートを課す。 ①課題レポート（第1期の研究成果のまとめ） ②調査レポート（第2期のフィールドワークのまとめ）
試験のフィードバックの方法
最終回の授業で、演習全体についての総括を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習） ・第1期は、テキストとして使用する文献の指定箇所を事前に熟読し，関連事項を調べておくとともに、不明な点を整理しておく。また、報告担当となった場合は、レジュメを作成し、論点を提示するための準備を行う（毎回3時間程度）。 ・第2期は、フィールドワークの実施に関して、関連文献の収集と解読、調査対象についての事前学習、データの分析と考察を行う。また、これらの成果を報告するためのレジュメを作成する（毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
<必携書> 『大学生の研究』（1年次購入済み） また、テキストについては授業中に指示する。 このほか、授業中に文献を紹介するとともに，必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー
質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。
連絡先
nikaidoy@m.ndsu.ac.jp
留意事項
「地域社会学」「社会調査論Ⅲ」を履修していない場合は、3年次に必ず履修してほしい。

現代社会学演習［f］					単位数	4単位
授業コード	44040	科目ナンバリング	250B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	森　泰三					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し，必要な専門的知識および技法を修得する。そのため，はじめに文献検索・地図の活用・資料分析・地域調査など地理学や社会科教育に関する基本的な研究方法の習得を行う。次に各自が関心を持つ分野の先行研究や地域調査の結果などの報告を通して，研究テーマを確定していく。このため長期休業中などを利用したフィールドワークは，授業や研究を進める上で重要な意味をもつこととなる。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	関連する文献検索や地形図読図・空中写真読解・統計処理・主題図作成などの基本的技術を習得し、表現できる。	知識・技能／主体性
2	フィールドワークを通して，地域に関する実践的分析力を獲得することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	文献調査やフィールドワークに基づく地域調査の結果を，効果的な手法で発表できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	最終的に卒業論文を作成する力量が獲得できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	演習への取り組み度（発表や討論への参加状況）（50%）	1／2／3／4
2	地理的技能（地図作成など）の修得状況　（20%）	1／2
3	課題レポート　　（30%）	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業のはじめは，地理学方法論を主とする講義とそれに関連する実習を行う。その後，各自の研究成果の発表をもとにした研究協議を行う。なお，授業の進行に応じ，適当な時期に学外でフィールドワークを行うことがある。

１　地理学研究概説
２　地理学研究の諸分野
３　基本文献と情報検索
４　地図類とその利用(地形図を中心に)
５　地図類とその利用(大縮尺図の活用)
６､7　統計利用とコンピュータ活用
８　GISの活用法
９､10　GISを活用した主題図作成
11　地域調査の方法(身近な地域の観察)
12　地域調査の方法(聴き取り調査)
13～15　地理学に関する文献講読
16～30　各自のテーマに基づく文献報告及び調査地域の選定，並びに実践の発表及び研究の深化
※３年生対象

定期試験

授業中に発表内容や課題レポートの提出をする。内容は、読図、統計処理、主題図作成、フィールドワークレポート、各自の研究内容等である。

試験のフィードバックの方法

授業中に発表や課題に対するコメントする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回の授業では地理学方法論を学ぶためにテキスト以外の教材を配付，紹介するので，予習，復習を通して確実な知識と技能を身につけていただきたい。また，各自の課題発表時には十分な準備を行い，発表後も得られたコメントを生かし，力量を高めて欲しい。パソコンの活用については，時間をかけた習熟が不可欠であるので，授業外の時間を利用し積極的に取り組みましょう。各回予習1時間30分，復習1時間30分は必要である。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
授業時に指示
・『ジオ・パルNEO―地理学地域調査便利帖―』，野間晴雄他著，海青社
・『現代社会の人文地理学』，稲垣稜，古今書院
＜参考書等＞
・『GISで楽しい地理授業』，森泰三，古今書院
・地形図・空中写真など必要に応じて演習中に指示する。

オフィスアワー

Ⅰ期　木曜日　３時限　　Ⅱ期　火曜日　４時限

連絡先

tmori@m.ndsu.ac.jp

留意事項

卒業論文作成のための演習であるので，研究テーマや調査地域の設定などは，各自が積極的かつ主体的に取り組むことが必要である。広範な内容を含む地理学でも人文地理学分野での研究を対象とするが，社会科教育分野の研究も可能である。

現代社会学演習［d］				単位数	4単位
授業コード	44060	科目ナンバリング	250B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	濱西　栄司				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

「現代社会学演習」では、各クラス共通して、社会学の各領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。
社会学の各領域は、対象の水準（個人～集団～社会全体）と対象の分野（家族・ジェンダー・地域・教育・環境・宗教・メディア…）で分けられるが、そのなかで本演習クラスでは、「集団」の水準には限定されるが、すべての分野を対象とする「社会集団・組織論」という領域について知識・技法を習得していく。授業でとりあげられる事例は、家族や地域、ジェンダー、教育、環境、宗教、メディア、政治、経済、グローバル化などすべての分野にわたり、自身の研究対象を自由に選ぶことができる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	既存の研究を批判的に検討することができる。	知識・技能
2	自身の関心を社会学的な研究課題に展開することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	関心のある事例を選び、データを集め、分析を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	研究発表と討論：50%	1／2／3
2	課題論文：50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション
2. 研究テーマ（社会集団組織論と環境・社会問題）
3. テーマの重要性：量の多さ・経済的効果から
4. テーマの重要性：政策・政治の動きから
5. テーマの重要性：悩み・課題・問題化から
6. テーマの重要性の文章化：自然な流れ
7. テーマの重要性の文章化：客観的に
8. 研究課題のしぼりこみ：最終的なゴール
9. 研究課題のしぼりこみ：答えの想定
10. 研究課題の文章化
11. 先行研究の収集：J-stage、Google Scholarの活用
12. 先行研究の紹介：各節と重要性
13. 先行研究の批判的検討：研究課題からの逆算
14. 2~4章の仮構成
15. まとめと期末レポート

16. 第1期の振り返りと今後
17. 現状の報告：前半
18. 現状の報告：後半
19. フィールドとしての地域’（住民）、NPO、行政、企業
20. フィールドへのアクセス：オンラインでの情報収集
21. フィールドへのアクセス：フィールドの訪問・記録
22. フィールドへのアクセス：資料をもらうための連絡
23. ラポールを築く：3年次から／参加する・協力する
24. 進捗と成果の報告：前半
25. 進捗と成果の報告：後半
26. フィールドの検討・再検討
27. インタビュー（4年次）に向けた情報収集・知見の整理
28. 例外的なインタビューの実施（行政の場合のみ）
29. 全体の文章化
30. まとめと期末レポート

※3年生対象

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
Google Classroomを用いて行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テーマに関連する資料を読解し、発表の準備をする（毎回、10時間程度[2時間×5日間]）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業中に適宜配布する
オフィスアワー
第1回授業時に説明する。例年、授業時間とは別に、1対1の個別相談（30～45分）を受講者の希望通り設定している（土日はZoomで実施）。
連絡先
hamanishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・幅広い事例、テーマを扱う演習であるため、共通の経験が得られるようなフィールドワークの機会（日帰り）を意図的に設けるようにしている。2017年度以前は浅口市（あさくち未来デッサン審査会）、2018年度は鞆の浦（環境社会学会）、2019年度は瀬戸内国際芸術祭（犬島）、2021年度はアースデイ岡山（北長瀬）、2022年度は日生・うみラボ（環境省）など。

現代社会学演習［e］				単位数	4単位
授業コード	44070	科目ナンバリング	250B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	福田　雄				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。第1期では、先行研究を読み進めながら各自の研究テーマ・関心を練り上げる。第2期では、データや資料の収集およびその解釈の方法論を習得する。それと同時に、自身の問いを発見したり深めるための調査も進める。自身の研究テーマの発表や研究計画書の作成を通じて、卒業論文執筆のための基礎づくりを行う。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	先行研究の目的、方法、結論を読解し、批判的に検討することができる。	知識・技能
2	必要な資料やデータを収集することができる。	主体性
3	先行研究の検討から導かれた問題や、調査から得られたデータを、整理し秩序づけることができる。	思考・判断・表現力
4	得られた知見やデータを他者にも理解可能な形で表現することができる。	思考・判断・表現力
5	学術的な対話の方法、調査者と被調査者との関係のあり方について、対面・非対面的なコミュニケーションを円滑にすることができる。	主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	演習への参加態度と報告内容、10%。	1／2／3／5
2	レポート（研究計画書）、90%。	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. オリエンテーション
2. 研究テーマと関心について、報告とディスカッション
3～15.先行研究の講読と発表
　『宗教と社会』『宗教研究』『社会学評論』『ソシオロジ』といった雑誌から、一つ論文を選択し全員が読んだ上で授業に臨む。
週ごとに発表担当者を決めて、レジュメ（筆者が何を目指し、実際に何を論じえたのか、またその課題も添えた要約）を作成し、報告し議論する。
16～23.　データ収集（調査の前のリサーチ→アポイントメント→フィールドワーク）
24～27. 得られたデータの整理、報告と討議。
28～30. 卒業論文の問いの精緻化、研究計画書（レポート）の執筆

定期試験
レポート（研究計画書）
試験のフィードバックの方法
授業最終日に個別にフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
論文など講読課題があれば、要約を作成し、必要であれば関連する他の論文や書籍も読んだうえで、授業にのぞむ。また評価や批判のポイントなど、ディスカッションに必要な作業については事前にまとめたうえで必要であれば配布資料も作成すること。（60分以上）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
『大学生の研究』（一年次購入済み）
オフィスアワー
最初の授業に指定します。
連絡先
u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会史演習［e］					単位数	4単位
授業コード	44100	科目ナンバリング	250B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	森　泰三					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し，必要な専門的知識および技法を修得する。そのため，はじめに文献検索・地図の活用・資料分析・地域調査など地理学や社会科教育に関する基本的な研究方法の習得を行う。次に各自が関心を持つ分野の先行研究や地域調査の結果などの報告を通して，研究テーマを確定していく。このため長期休業中などを利用したフィールドワークは，授業や研究を進める上で重要な意味をもつこととなる。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	関連する文献検索や地形図読図・空中写真読解・統計処理・主題図作成などの基本的技術が習得し、表現できる。	知識・技能／主体性
2	フィールドワークを通して，地域に関する実践的分析力を獲得することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	文献調査やフィールドワークに基づく地域調査の結果を，効果的な手法で発表できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	最終的に卒業論文を作成する力量が獲得できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	演習への取り組み度（発表や討論への参加状況）（50%）	1／2／3／4
2	地理的技能（地図作成など）の修得状況　　（20%）	1／2
3	課題レポート　　（30%）	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業のはじめは，地理学方法論を主とする講義とそれに関連する実習を行う。その後，各自の研究成果の発表をもとにした研究協議を行う。なお，授業の進行に応じ，適当な時期に学外でフィールドワークを行うことがある。

１　地理学研究概説
２　地理学研究の諸分野
３　基本文献と情報検索
４　地図類とその利用(地形図を中心に)
５　地図類とその利用(大縮尺図の活用)
６､7　統計利用とコンピュータ活用
８　GISの活用法
９､10　GISを活用した主題図作成
11　地域調査の方法(身近な地域の観察)
12　地域調査の方法(聴き取り調査)
13～15　地理学に関する文献講読
16～30　各自のテーマに基づく文献報告及び調査地域の選定，並びに実践の発表及び研究の深化

※３年生対象

定期試験

授業中に発表内容や課題レポートの提出をする。内容は、読図、統計処理、主題図作成、フィールドワークレポート、各自の研究内容等である。

試験のフィードバックの方法

授業中に発表や課題に対するコメントする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回の授業では地理学方法論を学ぶためにテキスト以外の教材を配付，紹介するので，予習，復習を通して確実な知識と技能を身につけていただきたい。また，各自の課題発表時には十分な準備を行い，発表後も得られたコメントを生かし，力量を高めて欲しい。パソコンの活用については，時間をかけた習熟が不可欠であるので，授業外の時間を利用し積極的に取り組みましょう。各回予習1時間30分，復習1時間30分は必要である。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
授業時に指示
・『ジオ・パルNEO―地理学・地域調査便利帖―』，野間晴雄他，海青社
・『現代社会の人文地理学』，稲垣稜，古今書院
＜参考書等＞
・『GISで楽しい地理授業』，森泰三，古今書院
・地形図・空中写真など必要に応じて演習中に指示する。

オフィスアワー

Ⅰ期　木曜日　３時限　　Ⅱ期　火曜日　４時限

連絡先

tmori@m.ndsu.ac.jp

留意事項

卒業論文作成のための演習であるので，研究テーマや調査地域の設定などは，各自が積極的かつ主体的に取り組むことが必要である。広範な内容を含む地理学でも人文地理学分野での研究を対象とするが，社会科教育分野の研究も可能である。

社会史演習［a］					単位数	4単位
授業コード	44120	科目ナンバリング	250B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	久野　洋					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独／クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。そのために、本演習では研究文献の輪読、史料の輪読、研究発表、レポート作成、個別指導を行う。さらに、史料調査の方法を学ぶために、フィールドワークを行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	日本史学の研究方法を理解し、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	自らの研究テーマについて研究動向を把握し、その内容を的確にレポートできる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	自らの研究テーマに関連する史料を収集し、批判的かつ多角的に読解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	他者の主張を理解した上で、論拠となる文献や史料を明示して、自分の意見を述べることができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業参加度（発表・討議）：50%	1／3／4
2	レポート：50%	1／2／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション

2～7. 研究文献の輪読
ゼミ生の興味関心にもとづいて、研究文献を輪読し、日本史学の研究動向や方法を学ぶ。

8～15. 史料の輪読
ゼミ生の興味関心にもとづいて、史料を輪読し、先行研究や関連史料を参照しつつ諸史料から歴史像を再構築していくための訓練を行う。

16. 研究テーマの確認
卒論研究を進めるためには、どのような先行研究を読み、どのような史料を読解する必要があるのか、見通しを確認する。

17～30. 各自の研究発表、研究調査の企画
各自が自分の研究テーマに即した発表を行い、ゼミ生全員による質疑応答を通じて今後の課題を明確化し、研究を深めることを目指す。史料調査の方法を実践的に修得するために、フィールドワークを行う場合もある。

※３年生対象

定期試験
以下のレポートを課す。 ①関心のあるテーマについて先行研究の動向をまとめたもの ②卒論で取り組みたいテーマについて先行研究の問題点と活用史料をまとめたもの（参考文献リスト付）
試験のフィードバックの方法
授業中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
報告担当者はしっかりした準備が求められる。報告準備にあたっては、各種の事・辞典で調べるとともに、先行研究や関連史料を探索してほしい。受講生は、報告担当でない回にも事前に文献・史料を読んでくる必要がある（毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業中に適宜紹介する。輪読する文献・史料については、教員が配布するか、各自が準備するか、その都度指示する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hisano@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会史演習［b］				単位数	4単位
授業コード	44130	科目ナンバリング	250B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	鈴木　真				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義／３実験・実習・実技				
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し，必要な専門的知識および技法を修得する。
（当該演習においては，上記内容をアジア社会史の研究領域においておこなう）

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	口頭発表用のレジュメを形式に則って作成できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	関心のあるテーマについて，先行研究の整理や問題点の指摘をおこなうことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	卒業論文のテーマを決定し，そのテーマに関する論点を整理して説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	発表の内容（発表に基づいたレポート作成も含む）：50%	1／2／3
2	授業に取り組む姿勢：50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 概要説明
2. 研究入門（1）史料
3. 研究入門（2）工具書
4. 研究入門（3）通説と概説書
5. 研究入門（4）先行研究と研究論文
6～10. 通史講読（1）～（5）
　　※ゼミ生の関心に基づき概説書を選定する
11～15. 研究論文講読（1）～（5）
　　※ゼミ生の関心に基づき論文を選定する
16～30. 個別報告
　　※ゼミ生の人数・研究進度により内容を調整する

※3年生対象

定期試験

試験はおこなわない。
研究報告（複数回）の内容や質疑応答，それを踏まえて作成されたレポートの完成度により，成績評価をおこなう。

試験のフィードバックの方法

講義中に指示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

それぞれの関心・研究テーマに沿い，読書・下調べを継続的におこなうこと（毎回3時間程度）。
日頃から可能な範囲で史料・文献を収集しておくこと。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
参考文献は講義中に適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日の4時限（14:45～16:15）

連絡先

suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp

留意事項

社会史演習［c］				単位数	4単位
授業コード	44140	科目ナンバリング	250B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	轟木　広太郎				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を習得する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ヨーロッパ社会史にふさわしい研究テーマを自分で見出すことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	自分の研究テーマの研究動向を把握することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	史料読解に必要な技術や発想法を活用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業での発表と質疑応答（75%）	1／2／3
2	レポート（25%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 文献についての導入的説明、および報告の順番の決定
2～20. 研究文献および史料の輪読、質疑応答
21～30. 個々の研究課題の発表，質疑応答

定期試験
レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業前には、輪読に用いる研究文献および史料をあらかじめ熟読するとともに、関連事項について十分な下調べをしておくことが求められる。また、自由発表の担当者はレジュメの作成に相応の準備時間をかけ、はっきりとした問題意識をもって報告に望み、そこで浮かび上がってきた課題については、教員の指示を参考にさらなる調査を行う（いずれも毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業時間に配布する。
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
ktodoroki@post.ndsu.ac.jp
留意事項

社会史演習［d］					単位数	4単位
授業コード	44150	科目ナンバリング	250B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	紺谷　亮一					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し，必要な専門的知識および技法を修得する。文献講読、考古学の現場見学、研究発表、レポート作成をおこなう。これらの作業を通して、卒業論文の作成にのぞむ。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	レジュメ作成のポイント、プレゼンテーション方法を身につけ、他人に自分の意見を簡潔に説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	データ操作の仕方、蓄積したデータの意味を論述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	先行研究、データ蓄積、データ処理、考察およびまとめ、という論文構成に則って自身の研究的オリジナリティーを説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	研究発表（レポート含む）：60%	1／2／3
2	取り組み姿勢　　：40%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１　演習内容紹介
２　日本考古学に関する文献（論文含む）紹介
３　縄文時代：論文講読　（三内丸山遺跡関連）
４　弥生時代：論文講読　（纒向遺跡関連）
５　古墳時代：論文講読　（楯突遺跡関連）
６　西アジア考古学に関する文献（論文含む）紹介
７　新石器時代：論文講読　（ギョベックリ遺跡関連）
８　銅石器時代：論文講読　（アルスランテペ遺跡関連）
９　青銅器時代：論文講読　（キュルテペ遺跡関連）
10　遺跡、博物館見学
11　遺跡、博物館見学
12～20　各自のテーマに基づく文献報告及び研究地域の選定
21～30　各自の研究発表及び卒論テーマの選定

※3年生対象

定期試験
研究報告（複数回）の内容や質疑応答，それを踏まえて作成されたレポートの完成度により，成績評価をおこなう。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業前には、輪読に用いる研究文献および史料をあらかじめ熟読するとともに、関連事項について十分な下調べをしておくことが求められる。また、自由発表の担当者はレジュメの作成に相応の準備時間をかけ、はっきりとした問題意識をもって報告に望み、そこで浮かび上がってきた課題については、教員の指示を参考にさらなる調査を行う（いずれも毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 輪読する書籍は随時紹介する。
オフィスアワー
授業中に指示する
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
授業以外にも自らのフットワークを活かして研究する姿勢をとってほしい。

卒業論文［現j］				単位数	6単位
授業コード	45000	科目ナンバリング	250B0-4000-o6	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	森　泰三				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので，かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて，指導を行う。
本授業では、地域の研究課題を地理学の視点から扱う。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	意義のある研究テーマを設定することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	収集した空間データを図表で表現したり、GISなどを活用したりすることで、根拠を明示できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	卒業論文　（100%）	1／2／3／4／5
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　　オリエンテーション
２～５　　研究テーマの決定
６～１０　　資料収集・分析と発表・討論
１１～１５　研究内容の発表・討論
１６～３０　論文執筆

論文提出等の期日は下記のとおり。
2023年
3月　　4年生オリエンテーション
5月　8日（月）～12日（金）　題目提出（16時30分まで）
提出場所：現代社会学科合同研究室
12月11日（月）　題目変更届締切（16時30分まで）

2024年
1月5日（金）～10日（水）卒業論文提出（16時30分まで）
詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2023年度版）」によること。
1月中旬～下旬　口頭試問
2月9日（金）　卒業論文要旨提出（16時30分まで）

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途定める。

定期試験

卒業論文

試験のフィードバックの方法

卒業論文の進捗状況を考えながら、個別に指導する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

この授業は卒業論文作成のために演習形式で行うので，研究テーマの設定，先行研究の検討，フィールドワークの報告などについて，明確な発表目的に基づく発表要旨やプレゼンテーション資料の作成が必要である。このため，十分に時間をかけた授業外準備が不可欠である。
予習2時間　復習1時間　その他、各自でフィールドワーク、データ収集・分析が必要

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『大学生の研究−その技法とルール−』（1年次購入済み）
『ジオ・パルＮＥＯ第2版』野間・香川ほか，海青社
『現代社会の人文地理学』稲垣稜，古今書院

オフィスアワー

Ⅰ期　木曜日　３時限　　Ⅱ期　火曜日　４時限

連絡先

tmori@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
・口頭試問は，原則として指導教員が主査，その他の教員が副査をつとめる。
・口頭試問終了後，要旨を執筆して提出しなければならない。

卒業論文［現b］				単位数	6単位
授業コード	45010	科目ナンバリング	250B0-4000-o6	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	二階堂　裕子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。この授業では、現代の地域社会における諸事象の中から具体的な研究テーマを選び、それに沿って必要なデータの収集と分析を進め、その成果を卒業論文としてまとめる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	意義のある研究テーマを設定することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	卒業論文：100%	1／2／3／4
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション
2～5. 研究成果の発表と全体討論（研究テーマの決定）
6～10. 研究成果の発表と全体討論（研究対象の決定）
11～15. 研究成果の発表と全体討論（研究対象の事前学習）
16～20. 研究成果の発表と全体討論（フィールドワークで得たデータの分析）
21～30. 論文の執筆

論文提出等の期日は下記のとおり。
2023年
　3月31日（金）4年生オリエンテーション
　5月8日（月）～12日（金）題目提出（16時30分まで）
　　提出場所：現代社会学科合同研究室
　12月11日（月）題目変更届締切（16時30分まで）

2024年
　１月５日（金）～10日（水）卒業論文提出（16時30分まで）
　　詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2022年度版）」によること。
　１月中旬～下旬　口頭試問
　２月9日（金）卒業論文要旨提出（16時30分まで）

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

定期試験
卒業論文
試験のフィードバックの方法
口頭試問の結果をふまえて、個別指導を行なう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）卒論作成にあたり、研究テーマの設定から、関連する文献・資料の収集および検討、データの収集および分析を経て、最終的に結論を得るまでの過程を、論理的に記述することが求められる。授業前には、その時点での成果と今後の課題をわかりやすく説明するために、十分な時間をかけてレジュメを作成すること（毎回5時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『大学生の研究―その技法とルール―』（１年次に購入済み） その他、授業中に適宜文献や資料を紹介する。
オフィスアワー
質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。
連絡先
nikaidoy@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・「卒業論文」の評価は、口頭試問を加味して行う。 ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。 ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。

卒業論文［現i］				単位数	6単位
授業コード	45020	科目ナンバリング	250B0-4000-o6	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	紺谷　亮一				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので，かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて，指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	意義のある研究テーマを設定することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	卒業論文：100%	1／2／3／4
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

論文提出等の期日は下記のとおり。

2023年
3月30日（木）　4年生オリエンテーション
5月8日（月）～12日（金）　題目提出（16時30分まで）
　提出場所：現代社会学科合同研究室
12月11日（月）　題目変更届締切（16時30分まで）

2024年
1月5日（金）～10日（水）卒業論文提出（16時30分まで）
　　詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2022年度版）」によること。
1月中旬～2月上旬　口頭試問
2月9日（金）　卒業論文要旨提出（16時30分まで）

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは，別途，定める。

定期試験
卒業論文
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業ではおおむね半月ごとに論文の進捗状況の発表をくり返すことになるが，その準備のためだけではなく，最終的な論文完成に向けて，計画的かつ恒常的に，先行研究の読破，資料調査（フィールドワーク・文献調査），分析・考察を行なっていかなければならない（毎日数時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『大学生の研究――その技法とルール――』（1年次に購入済み）
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・「卒業論文」の評価は、口頭試問を加味して行う。 ・口頭試問は，原則として指導教員が主査，その他の教員が副査をつとめる。 ・口頭試問終了後，要旨を執筆して提出しなければならない。

卒業論文［現g］				単位数	6単位
授業コード	45030	科目ナンバリング	250B0-4000-o6	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	鈴木　真				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会学または歴史学に属する研究課題を取り扱うもので，かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて，指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	意義のある研究テーマを設定することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	卒業論文：100%	1／2／3／4
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

論文提出等の期日は下記のとおり。

2023年
3月下旬　　4年生オリエンテーション
5月8日（月）～12日（金）題目提出（16時30分まで）
　　提出場所：現代社会学科合同研究室
12月11日（月）　題目変更届締切（16時30分まで）

2024年
1月5日（金）～10日（水）卒業論文提出（16時30分まで）
　　詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2023年度版）」によること。
1月中旬～下旬　口頭試問
2月9日（金）　卒業論文要旨提出（16時30分まで）

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは，別途，定める。

定期試験

卒業論文

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

1年を通して，各自の研究テーマに関する先行研究の読み込み，各種史資料の収集・解読・分析をおこなうこと（毎回3時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

『大学生の研究――その技法とルール――』（1年次に購入済み）

オフィスアワー

月曜の4時限（14:45～16:15）

連絡先

suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp

留意事項

・「卒業論文」の評価は，口頭試問を加味して行う。
・口頭試問は，原則として指導教員が主査，その他の教員が副査をつとめる。
・口頭試問終了後，要旨を執筆して提出しなければならない。

卒業論文［現h］				単位数	6単位
授業コード	45040	科目ナンバリング	250B0-4000-o6	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	轟木　広太郎				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので，かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて，指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	意義のある研究テーマを設定することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	卒業論文：100%	1／2／3／4
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

論文提出等の期日は下記のとおり.
２０２３年
　３月３１日（金）４年生オリエンテーション
　５月８日（月）～１２日（金）題目提出（１６時３０分まで）
　　提出場所：現代社会学科合同研究室
１２月１１日（月）題目変更届締切（１６時３０分まで）

２０２４年
　１月５日（金）～１０日（水）卒業論文提出（１６時３０分まで）
　　詳細は「現代社会学科卒業論文要項（２０２３年度版）」によること.
　１月中旬～２月上旬　口頭試問
　２月９日（金）　卒業論文要旨提出

※卒業延期者（９月卒業予定者）の論文提出締め切りは，別途，定める.

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
自由発表の担当者はレジュメの作成に相応の準備時間をかけ、はっきりとした問題意識をもって報告に望み、そこで浮かび上がってきた課題については、教員の指示を参考にさらなる調査を行う（いずれも毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『大学生の研究――その技法とルール――』（1年次に購入済み）
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
ktodoroki@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・評価は、口頭試問を加味して行う。 ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。 ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。

卒業論文［現d］				単位数	6単位
授業コード	45080	科目ナンバリング	250B0-4000-o6	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	濱西　栄司				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので，かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて，指導を行う。
本授業では社会学、とくに社会集団・組織論、及び環境社会学の研究課題を扱う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	意義のある研究テーマを設定することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	卒業論文（100%）	1／2／3／4
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

論文提出等の期日は下記のとおり。

2023年
3月末　4年生オリエンテーション
5月8日（月）～12日（金）　題目提出（16時30分まで）
　提出場所：現代社会学科合同研究室
12月11日（月）　題目変更届締切（16時30分まで）

2024年
1月5日（金）～10日（水）　卒業論文提出（16時30分まで）
　詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2021年度版）」によること。
1月上旬～1月下旬　口頭試問
2月9日（金）卒業論文要旨提出（16時30分まで）

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは，別途，定める。

定期試験
卒業論文
試験のフィードバックの方法
口頭試問他で行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
1年を通して，各自の研究テーマに関する先行研究の検討，及び研究課題の絞込み，フィールドワーク（インタビュー調査や資料収集，参与観察を含む）を進めること（毎日数時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『大学生の研究――その技法とルール』（1年次に購入済み）
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
hamanishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・「卒業論文」の評価は，口頭試問を加味して行う。 ・口頭試問は，原則として指導教員が主査，その他の教員が副査をつとめる。 ・口頭試問終了後，要旨を執筆して提出しなければならない。

卒業論文［現a］				単位数	6単位
授業コード	45100	科目ナンバリング	250B0-4000-o6	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	山下　美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので，かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて，指導を行う．
本授業では原則として、家族、ジェンダーにかかわる研究課題を扱う．

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	意義のある研究テーマを設定することができる．	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる．	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる．	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる．	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	卒業論文：100%	1／2／3／4
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

論文提出等の期日は下記のとおり．
２０２３年
　３月３１日（金）４年生オリエンテーション
　５月８日（月）～１２日（金）題目提出（１６時３０分まで）
　　提出場所：現代社会学科合同研究室
１２月１１日（月）題目変更届締切（１６時３０分まで）

２０２４年
　１月５日（金）～１０日（水）卒業論文提出（１６時３０分まで）
　　詳細は「現代社会学科卒業論文要項（２０２３年度版）」によること．
　１月中旬～２月上旬　口頭試問
　２月９日（金）　卒業論文要旨提出

※卒業延期者（９月卒業予定者）の論文提出締め切りは，別途，定める．

２０２３年
　４月～７月　　卒論の進捗状況の発表
　８月　　中間発表会１回目
　９月　　中間発表会２回目
　１０月～１２月　卒論の進捗状況の発表
　１１月末　　卒業論文仮提出
　１２月末　　卒業論文再提出
２０２４年
　１月　　卒業論文提出
　１月～２月　　口頭試問
　１月～２月　　卒論要旨作成

定期試験

卒業論文

試験のフィードバックの方法

卒業論文作成過程において段階を踏んで複数回提出するレポートについて個別指導を行う.

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

１年を通して，各自の研究テーマに関する先行研究の検討，および研究課題の絞り込み，フィールドワーク（インタビュー調査や資料収集，参与観察を含む）を進めること（毎日数時間）.

複数回の研究発表会を実施する．十分な準備をして臨んでもらいたい.
卒業研究に必要なデータの収集だけでなく，多様な講演会・シンポジウム等にも参加し、見聞を広めてほしい.

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『大学生の研究―その技法とルール―』（１年次に購入済み）

オフィスアワー

授業中に指示する.

連絡先

miki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・「卒業論文」の評価は，口頭試問を加味して行う.
・口頭試問は，原則として指導教員が主査，その他の教員が副査をつとめる.
・口頭試問終了後，要旨を執筆して提出しなければならない.

卒業論文［現e］				単位数	6単位
授業コード	45110	科目ナンバリング	250B0-4000-o6	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	福田　雄				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので，かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて，指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	意義のある研究テーマを設定することができる。	知識・技能
2	信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。	主体性
3	客観的かつ公平なデータの整理分析・考察を行うことができる。	思考・判断・表現力
4	自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。	主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	卒業論文（100%）	1／2／3／4
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

論文提出等の期日は下記のとおり。

2023年
3月31日（金）　4年生オリエンテーション
5月8日（月）～12日（金）　題目提出（16時30分まで）
提出場所：現代社会学科合同研究室
8月末までに調査終了
9月第1週に調査結果の報告会開催（→必要なら追加調査 9月）
11月初頭、面談、タイトル決定
11月末、第一校提出
12月11日（月）　題目変更届締切（16時30分まで）

2024年
1月5日（金）～10日（水）　卒業論文提出（16時30分まで）
詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2021年度版）」によること。
1月中旬～下旬　口頭試問
2月上旬　卒業論文要旨提出

定期試験
卒業論文
試験のフィードバックの方法
卒業論文作成家庭において段階的に提出するレポート（論文原稿）にかんして、適宜個別指導をおこなう。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
1年を通して，各自の研究テーマに関する先行研究の検討（読書ノートの作成），及び研究課題の絞込み，フィールドワーク（インタビュー調査や参与観察）や資料・データ収集と分析を進めること（毎日数時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『大学生の研究―その技法とルール―』（1年次に購入済み）
オフィスアワー
授業中に指示する。
連絡先
u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・「卒業論文」の評価は，口頭試問を加味して行う。 ・口頭試問は，原則として指導教員が主査，その他の教員が副査をつとめる。 ・口頭試問終了後，要旨を執筆して提出しなければならない。

卒業論文［現f］				単位数	6単位
授業コード	45120	科目ナンバリング	250B0-4000-o6	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	久野　洋				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので，かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて，指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	意義のある研究テーマを設定することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	客観的かつ公平なデータの整理分析・考察を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	卒業論文：100%	1／2／3／4
2		
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

論文提出等の期日は下記のとおり。

2023年
3月31日（金）　4年生オリエンテーション
5月8日（月）～12日（金）　題目提出（16時30分まで）
提出場所：現代社会学科合同研究室
12月11日（月）　題目変更届締切（16時30分まで）

2024年
1月5日（金）～10日（水）　卒業論文提出（16時30分まで）
　詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2023年度版）」によること。
1月中旬～2月上旬　口頭試問
2月9日（金）　卒業論文要旨提出（16時30分まで）

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは，別途，定める。

定期試験

卒業論文

試験のフィードバックの方法

授業中に指示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

1年を通して，各自の研究テーマに関する先行研究の検討，研究課題の絞込み，史資料の収集・分析を継続的に進めること（毎日数時間）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『大学生の研究―その技法とルール―』（1年次に購入済み）

オフィスアワー

授業中に指示する。

連絡先

hisano@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・「卒業論文」の評価は，口頭試問を加味して行う。
・口頭試問は，原則として指導教員が主査，その他の教員が副査をつとめる。
・口頭試問終了後，要旨を執筆して提出しなければならない。